

# 淀川水系神崎川ブロック河川整備計画 参考資料



平成25年8月  
大阪府

# 目次全体

第1章 河川整備計画の目標に関する事項.....	1
第1節 流域及び河川の概要.....	1
1. 流域の概要.....	1
(1) 神崎川ブロックの構成.....	1
(2) 流域市の概要.....	2
2. 流域の特性.....	4
(1) 自然環境特性.....	4
(2) 社会環境特性.....	14
(3) 歴史文化.....	24
3. 河川特性.....	31
第2節 河川整備の現状と課題.....	37
1. 治水の現状と課題.....	37
(1) 過去の洪水.....	37
(2) 治水の現状.....	41
(3) 治水の課題.....	47
2. 河川利用の現状と課題.....	48
(1) 河川利用の現状.....	48
(2) 河川利用の課題.....	53
3. 河川環境の現状と課題.....	54
(1) 環境の現状.....	57
(2) 水質の現状.....	61
(3) 河川環境の課題.....	65
4. 河川整備の課題.....	65
第3節 流域の将来像.....	66
第4節 河川整備計画の目標.....	67
1. 河川整備の長期目標.....	67
2. 治水の長期目標に関する検討.....	69
3. 河川整備計画の対象区間.....	96
4. 河川整備計画の対象期間.....	97
5. 河川整備計画の適用.....	97
6. 洪水による災害の発生の防止または軽減に関する目標.....	97
7. 河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する目標.....	99
8. 河川環境の整備と保全に関する目標.....	116
第2章 河川整備の実施に関する事項.....	119
第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要.....	119
第2節 河川維持の目的、種類及び施工の場所.....	148
第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項.....	149
1. 地域や関係機関との連携に関する事項.....	149
2. 河川情報の提供に関する事項.....	152

## 第1章 第1節

第1章 河川整備計画の目標に関する事項.....	1
第1節 流域及び河川の概要.....	1
1. 流域の概要.....	1
（1）神崎川ブロックの構成.....	1
（2）流域市の概要.....	2
①大阪市.....	2
②豊中市.....	2
③吹田市.....	2
④摂津市.....	3
⑤茨木市.....	3
⑥箕面市.....	3
⑦高槻市.....	3
2. 流域の特性.....	4
（1）自然環境特性.....	4
①地形・地質.....	4
②気候.....	5
③動植物.....	6
（2）社会環境特性.....	14
①人口.....	14
②土地利用.....	15
③産業.....	17
④公共施設.....	19
⑤レクリエーション施設.....	20
⑥交通.....	21
（3）歴史文化.....	24
①神崎川.....	24
②安威川.....	26
③文化財.....	27
3. 河川特性.....	31
（1）神崎川.....	31
（2）安威川.....	32
（3）天竺川・高川・糸田川（神崎川支川）.....	34
（4）大正川・山田川・正雀川（安威川中下流支川）.....	35
（5）茨木川・佐保川・勝尾寺川・川合裏川・下音羽川（安威川中上流支川）.....	36

**F** 河川特性 P31、河川整備の現状と課題 P37

**F** 河川特性 P31、河川環境と現状の課題 P54

**F** 治水の現状と課題 P41、河川利用の現状と課題 P48  
河川環境の現状と課題 P54、神崎川の洪水処理方式 P91

**F** 治水の現状と課題 P41、河川利用の現状と課題 P48、  
河川環境の現状と課題 P54

## 第1章 第2節、第3節

第2節 河川整備の現状と課題	37
1. 治水の現状と課題	37
（1）過去の洪水	37
（2）治水の現状	41
①神崎川	41
②安威川	43
③天竺川・高川・糸田川・上の川（神崎川支川）	44
④正雀川・山田川・大正川（安威川中下流支川）	45
⑤茨木川・佐保川・勝尾寺川・川合裏川（安威川中上流支川）	45
⑥内水域	46
（3）治水の課題	47
2. 河川利用の現状と課題	48
（1）河川利用の現状	48
（2）河川利用の課題	53
3. 河川環境の現状と課題	54
（1）環境の現状	57
①都市を流れる河川（神崎川・安威川下流（神崎川合流点～大正川合流点））	57
②まちを流れる小河川（天竺川・高川・糸田川・上の川・山田川・大正川）	57
③まちを流れる中河川（安威川中下流（大正川合流点～茨木川合流点））	58
④里地を流れる中小河川（安威川中上流（茨木川合流点～桑原橋付近）、 茨木川、佐保川下流、勝尾寺川下流、川合裏川）	58
⑤山地を流れる中小河川（安威川上流（桑原橋～）、佐保川上流、勝尾寺川上流）	59
⑥安威川	60
（2）水質の現状	61
（3）河川環境の課題	65
4. 河川整備の課題	65
第3節 流域の将来像	66

**F** 河川整備の長期目標 P67  
神崎川の洪水処理方式 P91、安威川の洪水処理方式 P92  
河川整備計画の対象区間 P96、河川整備計画の適用 P97  
地域や関係機関との連携… P149、河川情報の提供… P152

**F** 河川整備計画の適用 P97  
河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する目標 P99  
アドプトリバー P148、地域や関係機関との連携 P149

**F** 河川整備計画の適用 P97  
河川環境の整備と保全に関する目標 P116  
地域や関係機関との連携 P149

**F** 河川整備計画の長期目標 P67、アドプトリバー P148

## 第1章 第4節

第4節 河川整備計画の目標.....	67	
1. 河川整備の長期目標.....	67	
2. 治水の長期目標に関する検討.....	69	
(1) 基本とする高水の設定.....	70	
①計画規模の設定.....	71	
②目標とする雨量の設定.....	72	
③計画降雨波形(群)の設定.....	76	
④基本とする高水の設定.....	80	
(2) 計画とする高水流量の設定.....	89	
①洪水処理計画の必要性の検討.....	89	
②洪水処理方式の検討.....	90	
③計画とする高水流量の設定.....	93	
3. 河川整備計画の対象区間.....	96	
4. 河川整備計画の対象期間.....	97	
5. 河川整備計画の適用.....	97	
6. 洪水による災害の発生の防止または軽減に関する目標.....	97	
(1) 神崎川の整備目標.....	97	
(2) 神崎川、安威川の治水安全度について.....	98	
7. 河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持に関する目標.....	99	
(1) 安威川ダムの新規開発水量について.....	100	
(2) 安威川の正常流量について.....	100	
①維持流量.....	100	
②水利流量.....	110	
③正常流量.....	110	
8. 河川環境の整備と保全に関する目標.....	116	

**F** 河川整備の実施に関する事項 P119

**F** 河川利用の現状と課題 P48  
河川整備の実施に関する事項 安威川 P123

**F** 河川環境の現状と課題 安威川 P54

## 第2章

第2章 河川整備の実施に関する事項.....	119	
第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所		
並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要.....	119	
1. 神崎川（猪名川合流点上流）.....	119	F 河川整備の長期目標 神崎川 P67
2. 安威川.....	123	F 河川整備の長期目標 安威川 P67
3. 天竺川.....	126	
4. 高川.....	130	
5. 糸田川・上の川.....	134	
6. 大正川.....	138	
7. 茨木川・佐保川.....	145	
第2節 河川維持の目的、種類及び施工の場所.....	148	F 治水の現状と課題 P41

## 第3章

第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項.....	149
1. 地域や関係機関との連携に関する事項.....	149
2. 河川情報の提供に関する事項.....	152

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1. 流域の概要

(1) 神崎川ブロックの構成

神崎川は、摂津市の一津屋で淀川より分派し、安威川をはじめ糸田川、高川、天竺川を合流しながら西へ流下し、右支川猪名川を合流して南下すると共に、左門殿川、中島川を分派しつつ大阪湾に注ぐ、流路延長が **18.6km** (猪名川合流点より上流の流路延長は **11.4 km**) の一級河川です。

安威川は、京都府亀岡市竜ヶ尾山や高槻市の檜田地区に源を発し、途中下音羽川と合流して南流し、茨木市田中町付近で茨木川と合流してさらに南流し、摂津市域で流路を西方に変えながら、大正川、山田川、正雀川を合流し、大阪市東淀川区相川で神崎川に注いでいます。流路延長は **28.2km** (京都府亀岡市域内を除く) となっています。

神崎川ブロックは、猪名川合流点より上流の神崎川及びその支川から構成されます。

流域面積は **208.1km<sup>2</sup>** となっており、神崎川流域と当ブロックで最大の支川である安威川流域に大別でき、大阪府全体を地域分割した場合の豊能地域と三島地域にまたがって位置しています。また流域の下流部は地盤標高が出水時の河川の水位より低いために溜まった雨水を河川に自然放流できない内水域となっており、全体の約3割 (**65.3km<sup>2</sup>**) を占めています。

流域に関連する大阪府域の自治体は大阪市 (西淀川区、淀川区、東淀川区)、豊中市、吹田市、摂津市、茨木市、高槻市、箕面市、豊能町の7市1町です。

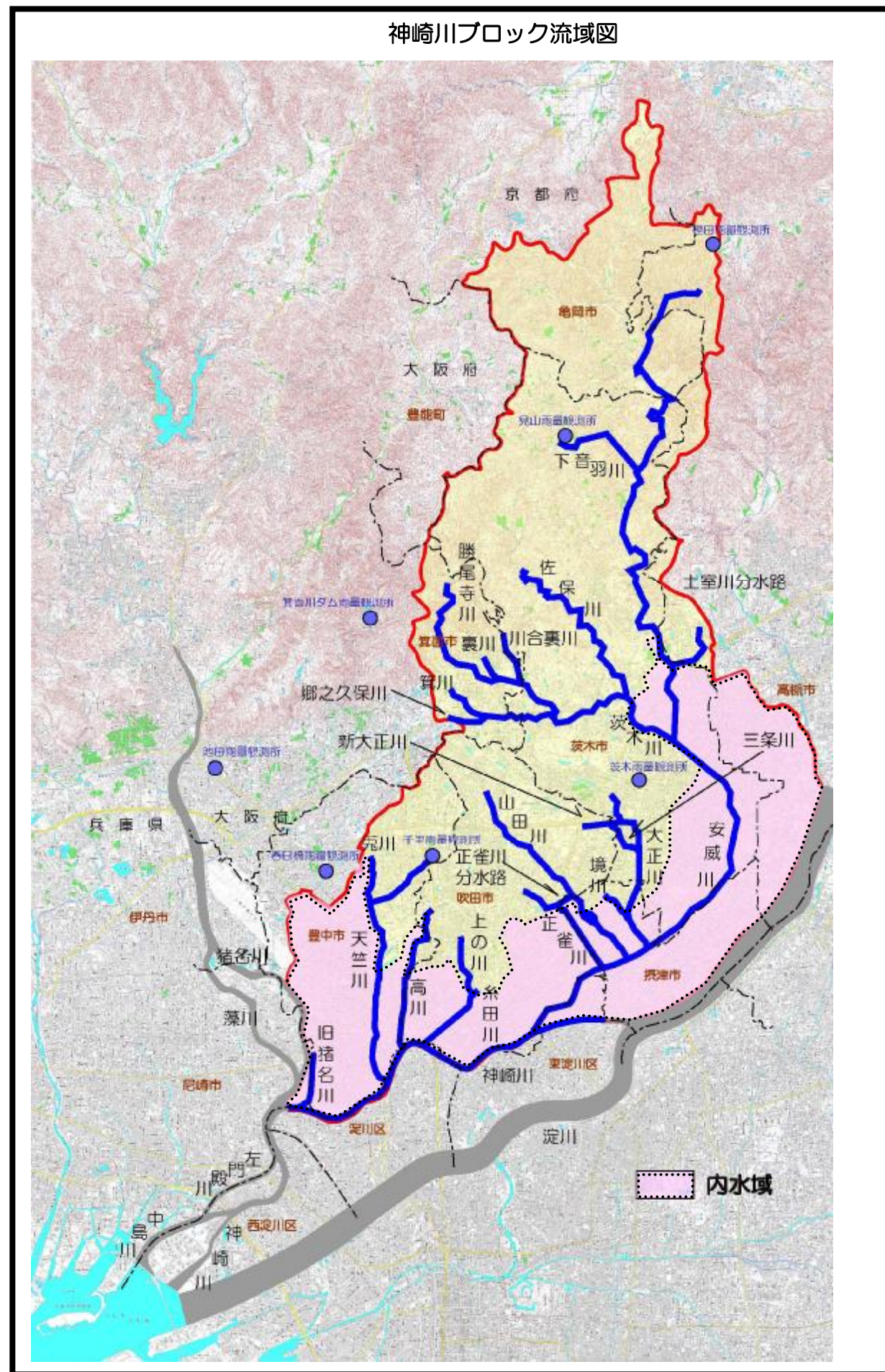
神崎川ブロック対象河川一覧

河川名	延長(km)	河川名	延長(km)	河川名	延長(km)
神崎川	11.4	正雀川	3.5	佐保川	6.8
旧猪名川	1.4	正雀川分水路	0.5	勝尾寺川	9.6
天竺川	7.6	山田川	7.4	箕川	3.8
兔川	1.5	大正川	5.3	郷之久保川	0.9
高川	4.3	境川	1.0	川合裏川	2.2
糸田川	2.3	三条川	1.7	裏川	0.8
上の川	1.8	新大正川	1.1	土室川分水路	1.1
安威川	28.2	茨木川	2.1	下音羽川	3.2

各市町が占める割合

市名	流域内面積 (km <sup>2</sup> )	流域に占める割合 (%)	市名	流域内面積 (km <sup>2</sup> )	流域に占める割合 (%)
大阪市	2.2	1.0	高槻市	19.7	9.5
豊中市	25.3	12.1	箕面市	11.6	5.6
吹田市	35.1	16.9	豊能町	0.1	0.1
摂津市	13.0	6.2	尼崎市	0.6	0.3
茨木市	76.5	36.8	亀岡市	24.0	11.5
合計				208.1	100

神崎川ブロック流域図



(2) 流域市の概要

① 大阪市（西淀川区・淀川区・東淀川区）

現在の東淀川区一帯は、縄文・弥生期までは芦の繁る多くの浅洲や島があり、これらの島々をぬって淀川・中津川・三国川（現在の神崎川）などの河川が西へ流れていました。今の南江口・大桐あたりが淀川の河口でしたが、長い歳月のなかでしばしば洪水が発生し、流路が変わりながら現在の姿になりました。古くから交通の要衝で、現在も東海道新幹線をはじめ多くの鉄道や道路が整備されており、区域の北側を西に流れている神崎川にも、数多くの橋が架かっています。神崎川周辺は住宅や工場などで高度に市街化が進んでおり、内水域でもあることから、洪水による被害は甚大なものとなると考えられます。

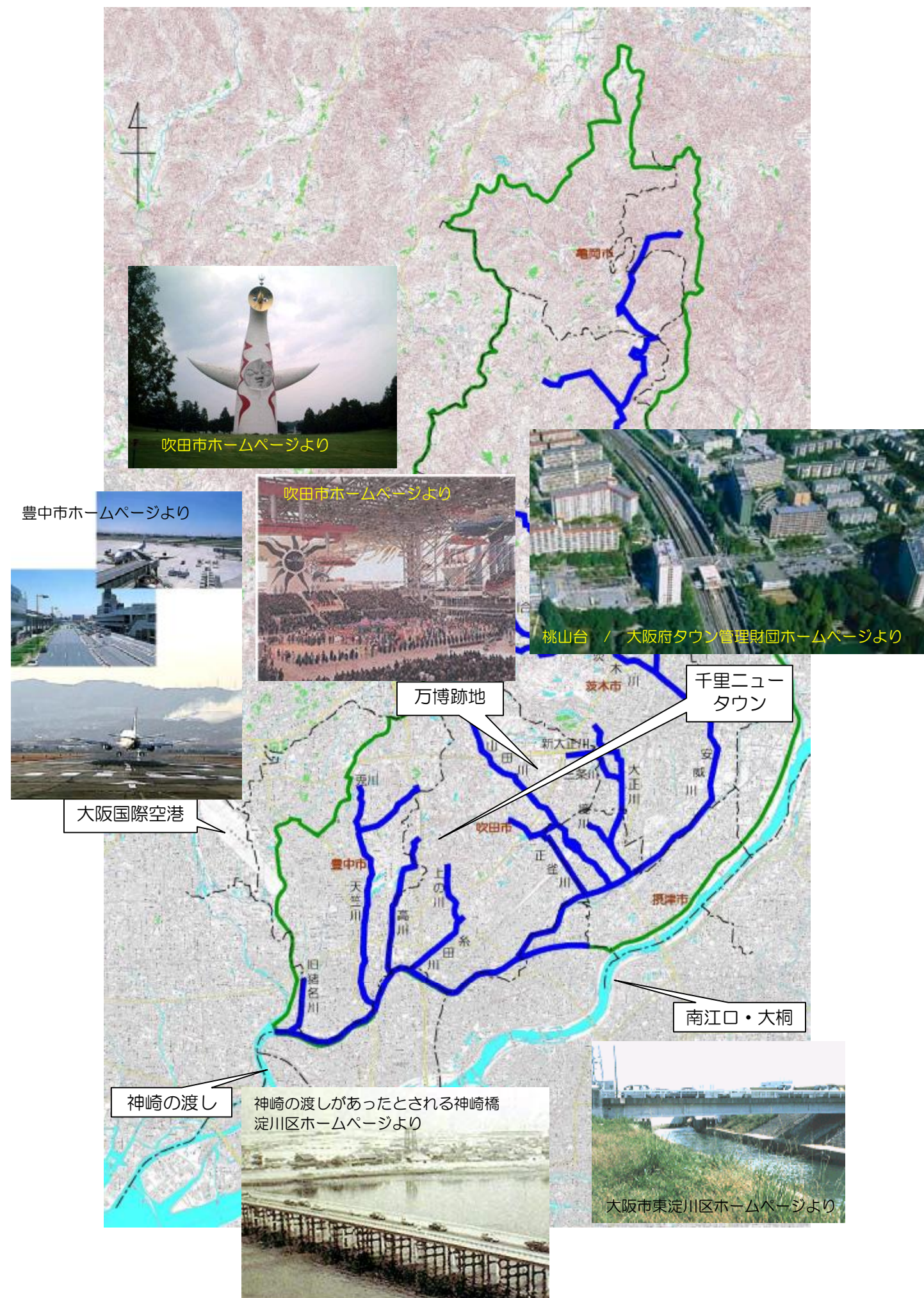
② 豊中市

大阪市北部に接する大阪都市圏の典型的な近郊住宅都市。古くから能勢街道沿いの街村を中心とする近郊農村として発展し、現在はほぼ全域が市街化区域となっています。高速道路各路線が結節する道路交通上の要衝でもあり、大学など教育機関も多く立地しています。

神崎川・猪名川の沖積低地は大阪市北部に続く工業地帯となっており、機械器具・金属工業・製油工業などの工場が建ち並んでいます。また、伊丹市・池田市にまたがって大阪国際空港があり、阪神地方における空の玄関となっています。市域の南側を神崎川が西に流れており、市域の西側では旧猪名川が、東側では高川が、その間を天竺川が南流して神崎川に合流しています。菟川は、天竺川に合流する支流です。特に天竺川、高川は天井川の様相を成しており、市域の北東部を除いて、大半が内水域となっていることから、洪水発生時の被害は甚大なものとなります。

③ 吹田市

延暦年間（782～804）に三国川を改修して京都への河川交通の要地となり、江戸時代には亀岡街道・伊丹街道の分岐点となり、交通上の要地として発展しました。明治時代には鉄道が開通、さらに酒造工場が進出するなど大阪北部の工業地域としても発展しました。大正時代からは大阪近郊のベッドタウンとして発展してきましたが、昭和30年代に始まった千里ニュータウンの建設、昭和45年に開催されたわが国最初の万国博覧会は、町の様相を大きく変えました。万国博覧会跡地には民俗学博物館をはじめ国際文化・学術研究施設などが建設され、大阪府の国際文化ゾーン構想の中核都市となっています。市域北東部には、万国博覧会跡地付近を上流端とする新大正川、山田川があり、市域の東側では正雀川がそれぞれ市域の南東側を流れる安威川に向かって流れています。市域の西側では高川が、千里ニュータウンの南側を上流端とする上の川が糸田川に合流後、南流して神崎川に合流しています。ほとんどの河川が、千里ニュータウンの建設や万国博覧会に関連して護岸改修などが行なわれ、その後河川沿いに住宅などが建設され、住宅が連続して張り付いた状態（このような状態を人家連担と呼んでいます）となっているため、現状以上の流下能力アップのための河道拡幅が困難となってきています。また、一部の河川では護岸等の老朽化が目立っています。市域の南部は内水域となっており、浸水対策が必要となっています。





#### ④ 摂津市

大阪平野北部、淀川流域に位置し、低湿地帯にあたるため洪水の被害も多かったため、<sup>ねじゅう</sup>輪中堤や<sup>たんくら</sup>段倉造り（家の床より一段高く石を積み上げた倉）などの水との戦いの中で生み出された跡が残っています。戦前・戦後は鉄道・道路網の整備に伴い、大阪中心部より至近距離にあることも手伝って、企業が相次いで進出。高度成長期に急激な都市化が進み、大阪市近郊の中堅産業・住宅都市として発展しています。市域の西部では<sup>しょうじやく</sup>正雀川が、市域の北西部では<sup>しょうじやく</sup>正雀川分水路が山田川に合流後、安威川に向かって流れています。山田川の東側では、大正川が境川を合流後、山田川と平行して安威川に向かって流れています。市域のほとんどが内水域となっているため、浸水対策が必要となっています。

#### ⑤ 茨木市

かつては<sup>かたきりかつもと</sup>片桐且元の城下町として栄え、慶長6年（1601）に且元が大和国<sup>たつた</sup>竜田に移封後は天領となり、京都、大阪を結ぶ<sup>かたきり</sup>亀岡街道の交易都市として栄えました。明治以降は三島郡の中心都市となり、鉄道・産業道路の開通後は工業都市として、また住宅・文化都市として発展し、山麓地域には大学なども移転・新築されています。市域の東部を安威川が南北に縦断しており、北部から<sup>しきおとわ</sup>下音羽川、茨木川の順に合流しています。茨木川は、市域の中西部で<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川と佐保川に別れており、<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川は、市域の西部でさらに<sup>みの</sup>箕川や川合裏川に別れています。市域の南西部では、大正川が三条川を合流後、摂津市域へ流れています。市域の南東部の安威川周辺が内水域となっているため、浸水対策が必要となっています。中西部では、国際文化公園都市（愛称：<sup>さいと</sup>彩都）の整備に伴う、佐保川の河川改修が進められています。安威川上流においては、北摂豪雨被害を契機に計画された、安威川ダム建設に関連して、付替道路の建設やダム下流河道の改修などが進められています。

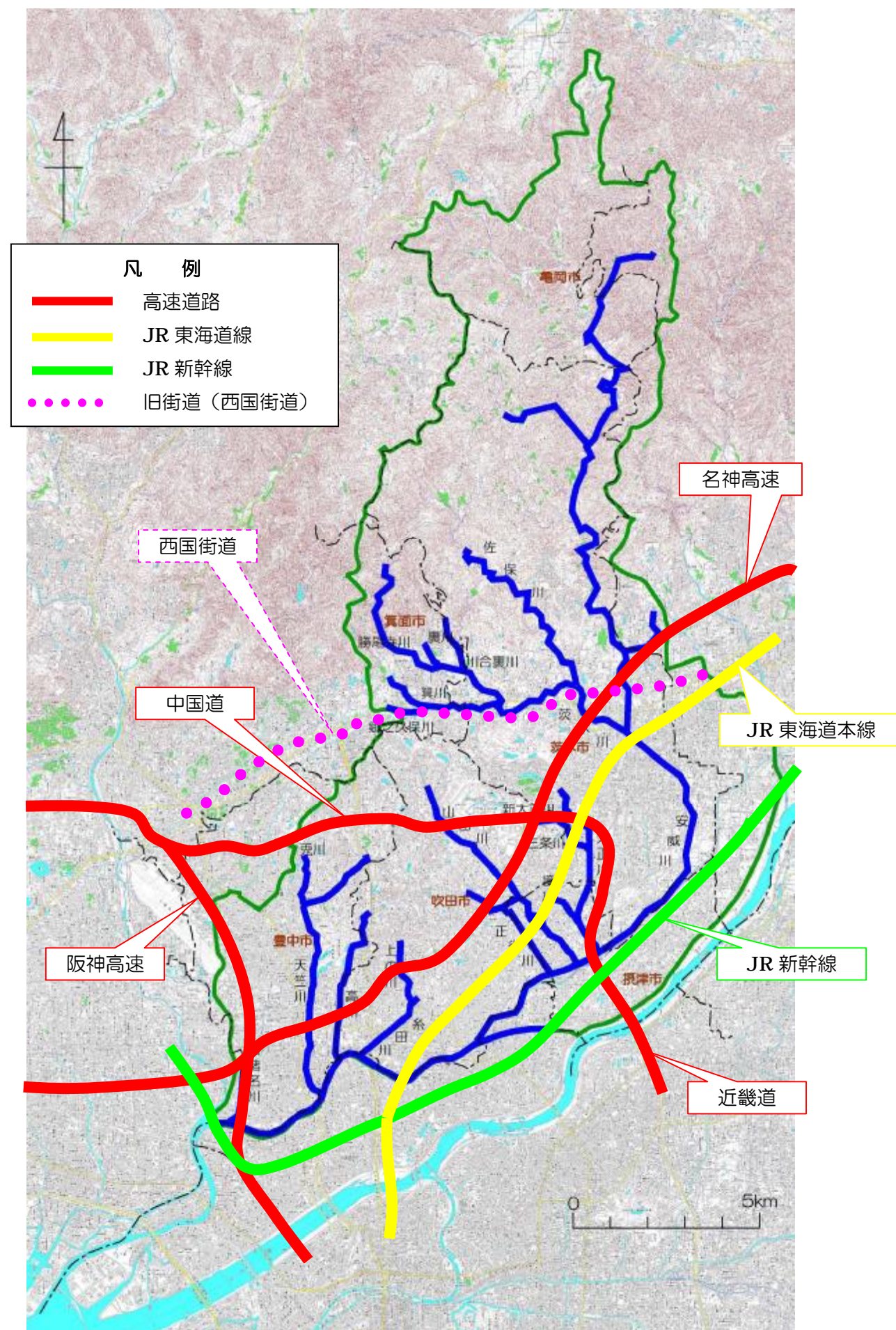
#### ⑥ 箕面市

市域の大部分は<sup>ちろぶこせい</sup>秩父古生層からなる山地で南部は箕面山地と千里山丘陵との間に開けた平野部となっています。明治時代に観光のため鉄道開通以来、住宅地として発展しています。市域の東部を<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川と<sup>みの</sup>箕川が茨木市域に向けて流れています。<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川には、裏川や川合裏川が合流しており、国際文化公園都市の開発に伴う整備が進められており、平成16年度には彩都のまち開きが行われました。また<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川の源流部には豊能町域が含まれています。<sup>みの</sup>箕川には<sup>ごうのくほ</sup>郷之久保川が合流しています。

#### ⑦ 高槻市

市内を横断する<sup>さいごく</sup>西国街道は、8世紀の山陽道の後身にあたり、約8.1kmにわたり市域を東西に貫いています。京から大宰府に通じ、淀川とともに三島地域の政治・経済に大きな影響を及ぼしました。市域の南西部が安威川流域に入っており、<sup>はるがわ</sup>土室川分水路が整備され、安威川に合流しています。内水域となっている箇所が多く、浸水対策が必要となっています。また、市域北部の<sup>かしだ</sup>榎田地区内を安威川（<sup>にりょう</sup>二料川とも呼ばれています）が南西方向に流れています。

出典  
 「日本歴史地名大系 大阪府の地名」平凡社  
 摂津市ホームページ、Yahoo!ホームページ  
 「ふるさとの文化財 郷土資料事典 大阪府」人文社



## 2. 流域の特性

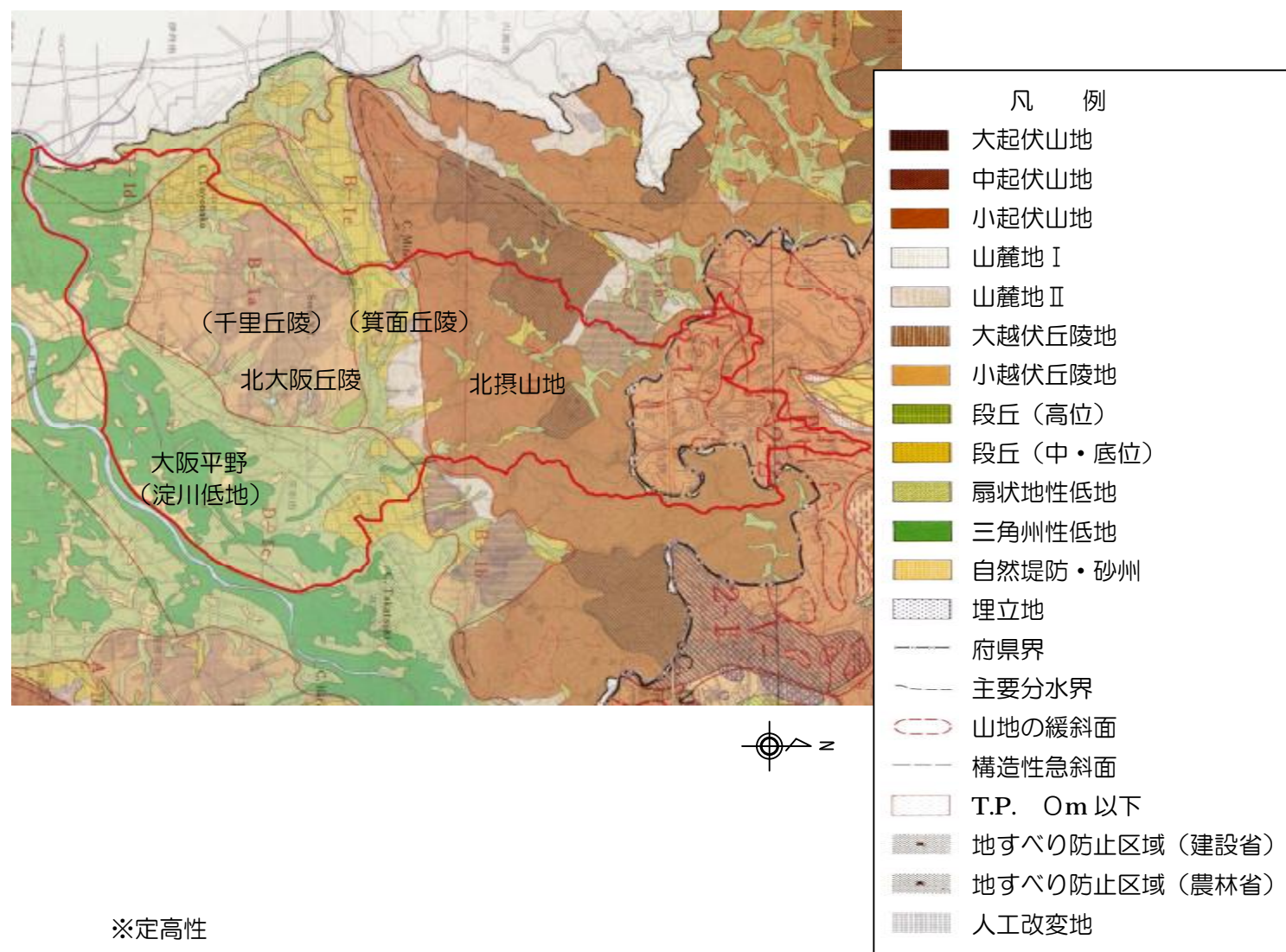
### (1) 自然環境特性

#### ① 地形・地質

神崎川ブロックの地形は、上流の山地部は北摂山地、丘陵部は北大阪丘陵、平野部は大阪平野で構成されています。北摂山地は急峻な斜面が発達していますが、山頂部には定高性\*がみられ、標高は700m以下で、全体としては高原状の地形的特徴を示しています。

上流の山間部では、砂岩・泥岩の互層、泥岩及び花崗岩質岩石等がみられ、低地部には未固結堆積物の砂や泥が広く分布しています。西部の丘陵部の地質は、泥・砂・礫の互層となっています。

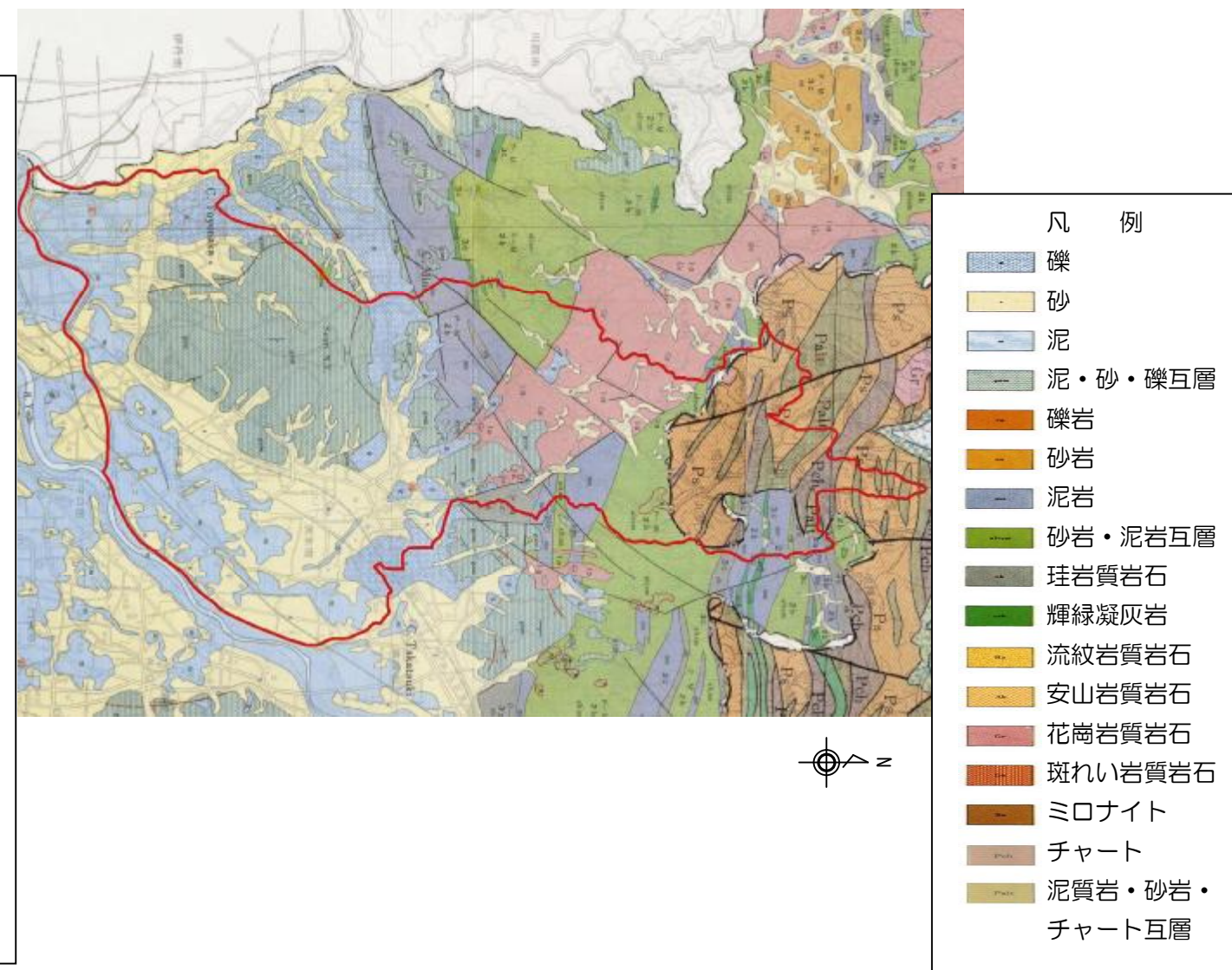
地形分類図



※定高性

稜線が同じような高さで長く続いていること。

表層地質図



出典：土地分類図/国土庁土地局(昭和51年)

② 気候

流域の気候は、山間部と平地部との違いはあるものの、全体的には比較的温暖な瀬戸内気候区に属し、四季を通じて穏和で降水量が少ないという特性があります。

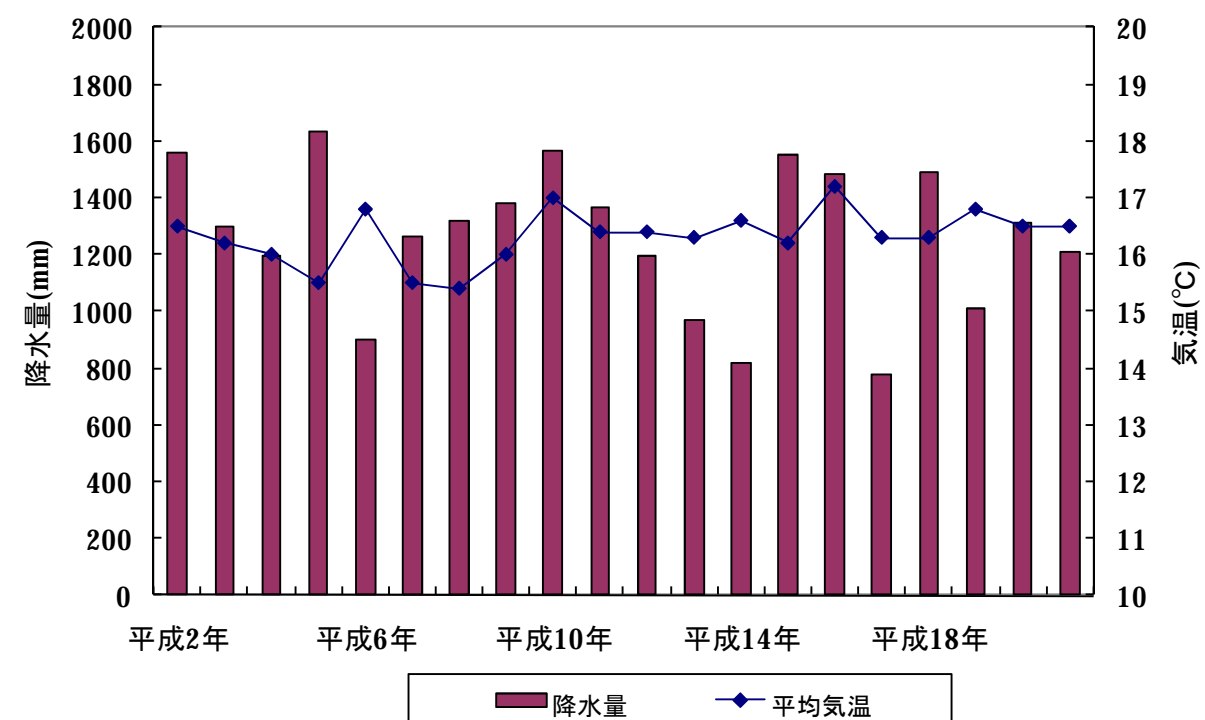
大阪管区気象台豊中観測所の20年間(平成2～21年)の観測結果によると、年平均気温は16.3℃、年間降水量は、1,265mmとなっています。梅雨期の5～7月と9月に多く、冬季に少なくなっているのが特徴といえます。



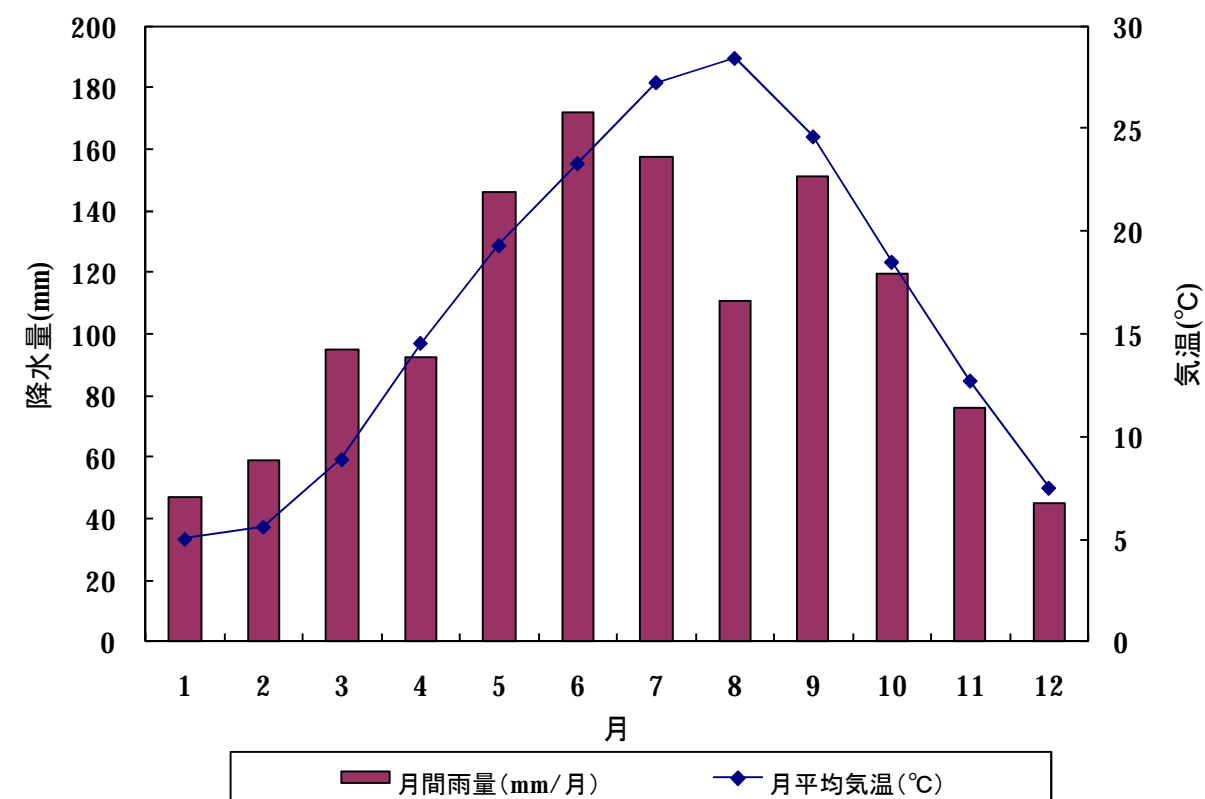
出典:「大阪気象百年」大阪管区気象台

気候区分布図

豊中観測所の年平均気温と年降水量(1990～2009年)



豊中観測所の月降水量と月平均気温(1990～2009年)



③ 動植物

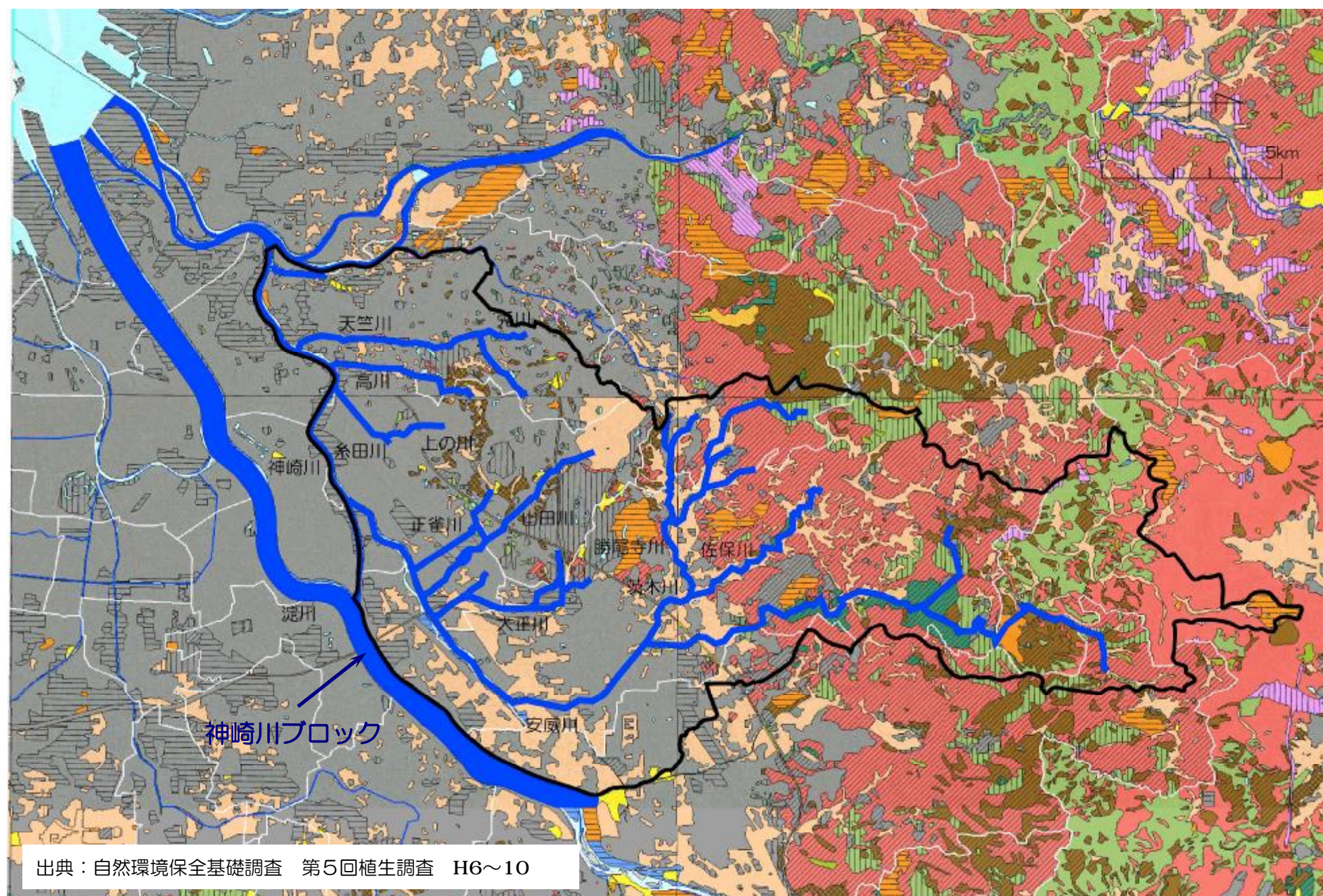
これまで、神崎川ブロックで実施された動植物調査をもとに種類別に確認された種数や貴重種などを以下に示します。当ブロックには、安威川ダムの建設計画があるため、安威川においては、特に詳細な調査が実施されています。

4 植物

神崎川ブロックの地形は、北摂山地の山地部、北大阪丘陵の丘陵地部、大阪平野の低平地部から成り、下流の低平地部には古くより市街地や農地が広がっていました。

神崎川ブロックの低平地部・丘陵地部のほとんどは市街地となっていますが、安威川中上流部や茨木川・佐保川沿いには田畑が残され、天竺川中流の<sup>ほとり</sup>服部緑地や、山田川上流の万国博覧会記念公園等には、かつての植生が緑地公園として残されています。

上流の山地部を見ると、そのほとんどは人の手が入った代償植生であり、山地部にモチツツジ-アカマツ群集、コナラ群集が広く分布します。自然植生としては、アラカシ群落<sup>しげ</sup>が安威川上流の下菅羽川合流点付近に分布しています。



凡 例	
ヤブツバキクラス域自然植生	
	アラカシ群落
	サカキ-コジイ群落
ヤブツバキクラス域代償植生	
	コナラ群落
	伐採群落
	ススキ群落
	アカマツ群落
	モチツツジ-アカマツ群集
	ヤブムラサキ-コナラ群集
ブナクラス域代償植生	
	ススキ群団
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生	
	ヨシクラス
植林地・耕作地植生	
	常緑針葉樹植林
	スギ・ヒノキ・サワラ植林
	竹林
	常緑果樹園
	落葉果樹園
	桑園
	畑地雑草群落
	牧草地
	水田雑草群落
その他（市街地・工場地帯・裸地など）	
	市街地
	緑の多い住宅地
	工業地帯
	造成地
	開放水域

4 魚類

現地調査資料が存在するのは24河川のうち神崎川、天竺川、安威川、山田川、大正川、茨木川、佐保川、勝尾寺川、川合裏川の9河川で、ここには合計8目17科51種の魚類が確認されています。

河川別に見ると安威川が48種と最も多く、神崎川が5種と最も少ない状況にあります。生活史別で見ると、純淡水魚39種、回遊魚9種、汽水魚3種と淡水魚が多く、汽水魚・回遊魚が少ない状況にあります。

回遊魚のアユは安威川山地部で確認されており、内水面漁業による放流魚と考えられます。また神崎川上流では天然と見られるアユが確認されています。汽水魚のボラは神崎川、安威川、大正川の合流点付近まで出現しています。

多くの河川に生息しているのは、オイカワ・カワムツ・ドンコ等であり、ブルーギル・ブラックバス・カムルチー等の外来種も9河川のうち6河川に進入しています。また、大阪府レッドデータブック（以後、大阪府RDBと表記）の絶滅危惧I類（絶滅の危機に瀕している種）・環境省レッドデータブック（以後、環境省RDBと表記）の絶滅危惧II類（VU）（絶滅の危険が増大している種）に指定されているアジメドジョウ、大阪府RDBの絶滅危惧I類（絶滅の危機に瀕している種）・環境省レッドリストの準絶滅危惧（NT）（現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）に指定されている陸封型カジカなどが安威川で確認されています。メダカ（大阪府RDB-絶滅危惧II類（絶滅の危険が増大している種）、環境省RDB：絶滅危惧II類）も、安威川、大正川、勝尾寺川で確認されています。

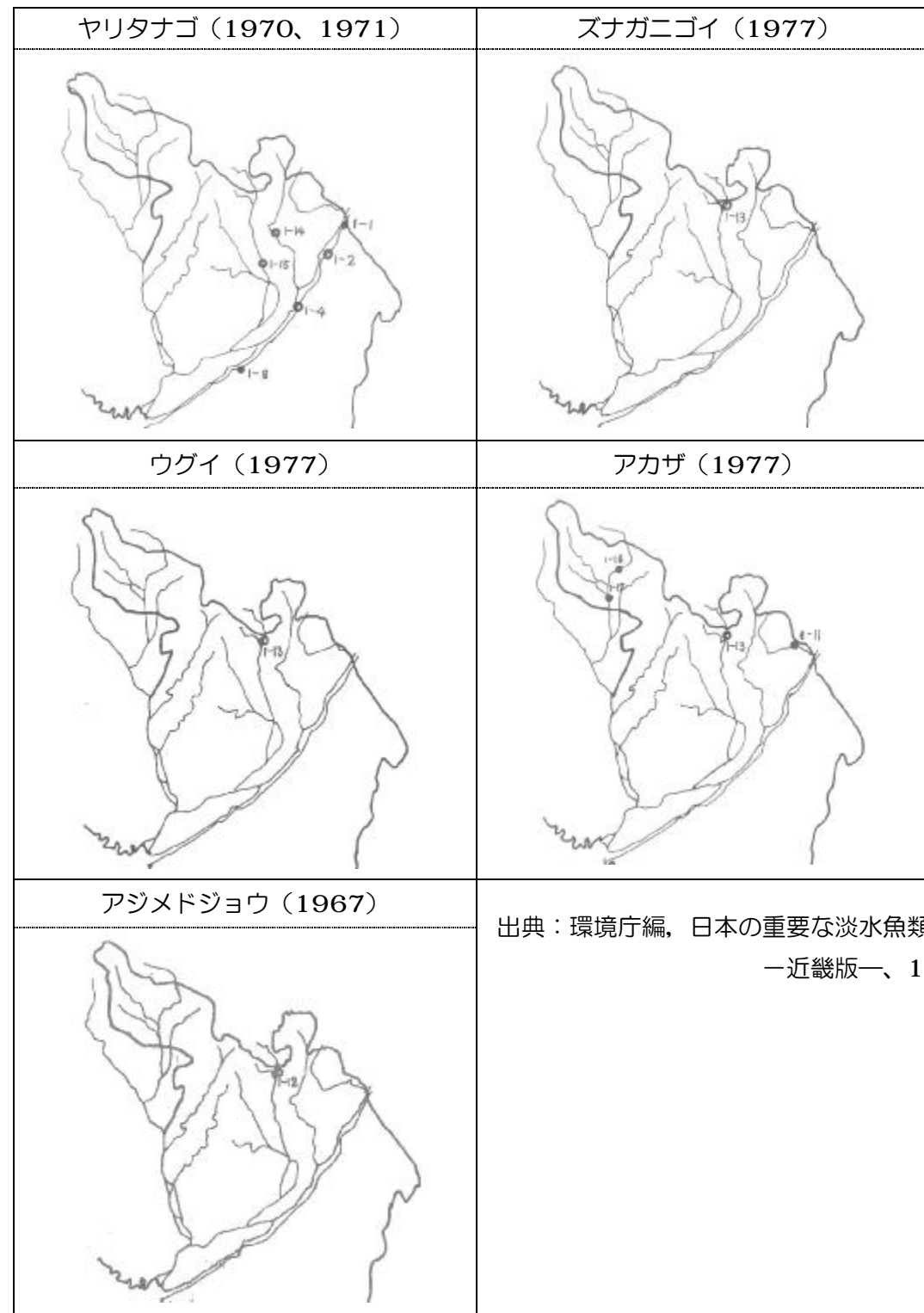
4 底生動物

現地調査資料が存在するのは魚類と同様に9河川です。ここには合計30目116科394種の底生動物が確認されています。

河川別で見ると安威川が360種と最も多く、神崎川が22種と最も少ない状況にあります。回遊性のモクズガニは神崎川・天竺川で、大阪府RDB-絶滅危惧I類、環境省RDB：絶滅危惧II類のセタシジミは神崎川・大正川で、環境の指標となるゲンジボタルは安威川・佐保川・勝尾寺川・箕川などで確認されています。

第2回自然環境保全調査に今回の調査結果を加え、重要な淡水魚のデータを基に当時生息するとされた、アカザ、ウグイ、ズナガニゴイ、ヤリタナゴ、アジメドジョウの経年変化を示しました。これによればヤリタナゴは1971年、ウグイは1977年以降確認されていません。

淡水魚類概略分布図



出典：環境庁編、日本の重要な淡水魚類  
—近畿版—、1982

第2回自然環境調査記載種の経年変化

魚種	年	1967	1970	1971	1977	1984	1986	1992	1995	1997	1998	1999	2000
アカザ					○ <sup>1)</sup>	○	○	○			○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>	
ウグイ					○ <sup>1)</sup>								
ズナガニゴイ					○ <sup>1)</sup>				○	○ <sup>4)</sup>		○ <sup>4)</sup>	
ヤリタナゴ			○ <sup>2)</sup>	○ <sup>2)</sup>									
アジメドジョウ	○ <sup>3)</sup>					○	○			○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>	○ <sup>4)</sup>

1) 大阪府陸水生物研究会、大阪府下の川と魚（1978年）  
 2) 森下郁子、淀川水系生物調査報告書（1973年）  
 3) 水野信彦、大阪府の川と魚の生態（1968年）  
 4) 大阪府安威川ダム魚類補足調査（1997～2000年）



アカザ



アジメドジョウ



ズナガニゴイ



ゲンジボタル

レッドデータブックにおけるカテゴリとその定義

環境省		大阪府	
絶滅 (EX)	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	絶滅	大阪府ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種		
絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	絶滅の危機に瀕している種	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種		
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い		
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種	準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種	情報不足	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの		
		要注目	注目を有する種

神崎川ブロックにおいて注目すべき水生動物

分類	種名	RDB カテゴリー	確認箇所
魚類	タモロコ	大阪府 RDB 要注目	安威川、天竺川、勝尾寺川
	ドジョウ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川、天竺川、佐保川
	シマドジョウ	大阪府 RDB 要注目	安威川
	スジシマドジョウ (型不明)	(小型種淀川型) 大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅰ類 環境省 RDB 絶滅危惧Ⅰ類 (中型種) 大阪府 RDB 要注目	安威川
	アジメドジョウ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅰ類 環境省 RDB 絶滅の恐れのある地域個体群	安威川
	ギギ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
	タカハヤ	大阪府 RDB 要注目	安威川
	カマツカ	大阪府 RDB 要注目	安威川、茨木川、佐保川
	ムギツク	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ズナガニゴイ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	アカザ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類 環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	メダカ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類 環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川、大正川、勝尾寺川
	陸封型カジカ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅰ類	安威川
	オオヨシノボリ	大阪府 RDB 情報不足	大正川、勝尾寺川
	ドンコ	大阪府 RDB 要注目	茨木川、佐保川、勝尾寺川、川合裏川
	底生動物	オオタニシ	大阪府 RDB 準絶滅危惧
モノアラガイ		大阪府 RDB 要注目 環境省 RDB 準絶滅危惧	安威川、天竺川、大正川、勝尾寺川
トンガリササノガイ		大阪府 RDB 要注目 環境省 RDB 準絶滅危惧	神崎川
セタシジミ		大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅰ類 環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	神崎川、大正川
カワニナ		大阪府 RDB 要注目	安威川佐保川、勝尾寺川
チリメンカワニナ		大阪府 RDB 要注目	勝尾寺川
アオサナエ		大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
ホンサナエ		大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
ゲンジボタル		大阪府 RDB 要注目	佐保川、勝尾寺川、安威川
ミヤマサナエ		大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
キイロサナエ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川	

**4 付着藻類**  
 現地調査資料が存在するのは、魚類・底生動物の 9 河川のうち山田川・茨木川・川合裏川を除く 6 河川です。ここには合計 5 綱 18 目 34 科 159 種の付着藻類が確認されています。  
 河川別で見ると、安威川が 140 種と最も多く、天竺川が 20 種と最も少ない状況にあります。  
 生物学的水質階級で見ると、その多くはβ中腐水性（BOD2.5～5mg/ℓ）相当にあり、安威川下流・神崎川等ではα中腐水性（BOD5～10mg/ℓ）相当の藻類が出現しています。

**4 鳥類**  
 現地調査資料が存在するのは、24 河川のうち安威川・大正川・佐保川の 3 河川と天竺川近傍にある服部緑地公園と高川近傍の池のデータ、これら合計 15 目 39 科 135 種の鳥類が確認されています。  
 河川別で見ると、安威川の 128 種が最も多く、高川近傍の池の 13 種が最も少ない状況にあります。生活環境を見ると、水辺や池沼に生息するサギ類やカモ類が多く出現しており、冬期に訪れる渡り鳥も多い状況にあります。大阪府 RDB-絶滅危惧Ⅱ類の種としては、オオタカ、ハチクマ、ヤマセミが安威川周辺で確認されています。

**4 哺乳類**  
 河川の現地調査資料が存在するのは佐保川と安威川があり、佐保川では、テン・イタチの 2 種が確認されており、安威川では、キツネ、ニホンリスなど 7 目 12 科 20 種が確認されています。

**4 両生類・爬虫類**  
 河川の現地調査資料が存在するのは、安威川・佐保川であり、両生類は 2 目 7 科 15 種、は虫類は 2 目 6 科 13 種が確認されています。安威川上流や佐保川では、オオサンショウウオ（大阪府 RDB-絶滅危惧Ⅱ類、環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類、特別天然記念物）の生息が確認されています。



オオサンショウウオ

表 神崎川ブロックにおいて注目すべき陸生動物

分類	種名	RDB カテゴリー	確認箇所
鳥類	ササゴイ	環境省 RDB 準絶滅危惧	大正川、佐保川
	ケリ	大阪府 RDB 要注目	安威川、大正川
	オオルリ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川、佐保川
	カワセミ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川、服部緑地公園
	サシバ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川、佐保川
	イソシギ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
	カワガラス	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川、佐保川
	センダイムシクイ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川、佐保川
	セッカ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川、佐保川
	クマタカ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅰ類 環境省 RDB 絶滅危惧ⅠB類	安威川
	オオタカ、チュウヒ、サンショウクイ	環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類 大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ミゾゴイ、ハチクマ	環境省 RDB 準絶滅危惧 大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	ヤマセミ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	フクロウ等 42 種	環境省 RDB、大阪府 RDB 等	安威川
両生類	カスミサンショウウオ	大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類 環境省 RDB 絶滅の恐れのある地域個体	安威川
	ヒダサンショウウオ	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
	オオサンショウウオ	文化財保護法特別天然記念物 環境省 RDB 準絶滅危惧 大阪府 RDB 絶滅危惧Ⅱ類	安威川
	イモリ	大阪府 RDB 要注目	安威川
	ニホンヒキガエル	大阪府 RDB 要注目	安威川
	ヤマアカガエル	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
	シュレーグルアオガエル	大阪府 RDB 要注目	安威川
	モリアオガエル	大阪府 RDB 準絶滅危惧	安威川
は虫類	カジカガエル	大阪府 RDB 要注目	安威川
	イシガメ	大阪府 RDB 要注目	安威川、佐保川
	タカチホヘビ	大阪府 RDB 情報不足	安威川
	アオダイショウ	大阪府 RDB 要注目	安威川
ほ乳類	ヒバカリ	大阪府 RDB 情報不足	安威川
	キツネ、アナグマ、ニホンリス等 6 種	大阪府 RDB	安威川

+ BOD（生物化学的酸素要求量）

河川などの水の汚れの度合いを示す指標で、水中の有機汚濁物質が微生物によって分解されるときに必要とされる酸素量から求める。

調査文献リスト

文献No.	調査文献名・作成者・対象年度等	対応河川No.	資料番号	位置情報
1	大阪府環境白書 平成13年版 (大阪府)	①		不明
2	大阪市環境白書 平成13年版 (大阪市)	①		不明
3	大阪府における保護上重要な野生生物 ー大阪府レッドデータブックー (大阪府 平成12年3月)	①,③,④,⑤		△
4	一級河川茨木川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成5年3月)	①,⑪,⑫,⑬	①-4,⑪-4,⑫-4,⑬-4	○
5	一級河川箕面川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成10年3月)	①	①-5	○
6	大阪みどりのマップ (大阪府 平成13年1月)	①,③,④,⑤		不明
7	現存植生図 (大阪・兵庫) ( (財) 自然環境センター )	①		不明
8	土地分類図 大阪府 ( (財) 日本地図センター 昭和51年 )	②		不明
9	第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 (環境庁 昭和56年)	②		△
10	第2回自然環境保全基礎調査 哺乳類メッシュ図 (環境庁 昭和57年)	②		△
11	第3回自然環境保全基礎調査 現存植生図 (環境庁 昭和60年)	②		不明
12	第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 (環境庁 平成元年)	②		△
13	第4回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 (環境庁 平成7年)	②		△
14	安威川水生生物現況調査報告書 (大阪府北部特定事業建設事務所 昭和60年)	②	②-14	○
15	安威川河川整備全体計画調査等業務報告書 (大阪府茨木土木事務所 昭和61年)	②	②-15	○
16	安威川水生生物現況調査報告書 その2 (大阪府北部特定事業建設事務所 昭和62年)	②	②-16	○
17	安威川ダム水質及び河川現況調査業務委託報告書 (大阪府北部特定事業建設事務所 平成3年)	②	②-17	○
18	安威川ダム河川現況調査及び影響予測検討業務委託報告書 (大阪府北部特定事業建設事務所 平成4年)	②	②-18	○
19	安威川ダム工事用道路に係る水生生物調査検討委託報告書 (大阪府安威川ダム建設事務所 平成8年)	②		不明
20	安威川総合開発事業に係る環境影響評価書 (大阪府 平成8年)	②	②-20	○
21	一級河川楠根川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成8年)	②	②-21	○
22	安威川上流多自然型河道基本計画業務報告書 参考資料 (大阪府茨木土木事務所 平成8年)	②	②-22	○
23	一級河川安威川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府茨木土木事務所 平成11年)	②	②-23	○
24	新修 豊中市史 ー自然ー (豊中市 平成11年3月)	③,④,⑤		×
25	豊中市 市街地図 縮尺1:12,000 (豊中市)	③,④,⑤		×

文献No.	調査文献名・作成者・対象年度等	対応河川No.	資料番号	位置情報
26	フィールドガイド とよなか むし (豊中市教育委員会 平成7年9月)	③,④,⑤		×
27	一級河川天見川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成7年3月)	③	③-27	○
28	一級河川千里川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成13年11月)	③	③-28	○
29	ホームページ 和田の鳥小屋 (和田岳)	③,④,⑤	③-29,⑤-29	○
30	河川水辺の国勢調査様式集	⑥,⑦,⑧,⑨		×
31	多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成6年3月)	⑥	⑥-31	○
32	一級河川大正川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成13年11月)	⑥	⑥-32	○
33	すいたの環境 平成12年度版 (吹田市)	⑥,⑦,⑧,⑨		△
34	生態調査資料 (味舌水路) (吹田市 平成11年12月)	⑥,⑦,⑧,⑨		×
35	茨木市鳥類調査報告書 (茨木市 昭和63年3月)	⑥,⑪,⑫,⑬	⑥-35,⑪-35,⑫-35,⑬-35	○
36	自然環境マップ (摂津市 平成8年3月)	⑥,⑦		×
37	川の生きものを調べよう (環境省水環境部 平成12年3月)	⑥,⑦,⑧,⑨		×
38	第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁 昭和56年)	⑥,⑦,⑧,⑨		△
39	J-IBIS 生物多様性情報システム 環境省第5回植生調査 1995-1997	⑥,⑦,⑧,⑨		△
40	第2回自然環境保全基礎調査 (環境庁 昭和54年)	⑩,⑪,⑫,⑬		不明
41	第3回自然環境保全基礎調査 現存植生図 (環境庁 昭和60年)	⑩,⑪,⑫,⑬		不明
42	一級河川箕面川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成10年3月)	⑪,⑫	⑪-42,⑫-42	○
43	平成7年度茨木川簡易動植物調査結果 (茨木土木 平成8年3月)	⑪	⑪-43	○
44	国際文化公園都市建設事業に係る環境影響評価 (現況調査) 業務 水生生物編 (都市整備公団 平成1年6月)	⑪,⑫,⑬	⑪-44,⑫-44,⑬-44	○
45	国際文化公園都市土地区画整理事業に係る環境影響評価書 (大阪府 平成4年3月)	⑩,⑪,⑫,⑬	⑪-45	○
46	環境プランいばらき21 (茨木市 平成11年3月)	⑩,⑪,⑫,⑬		不明
47	一級河川山田川外 多自然型護岸検討委託報告書 (大阪府 平成14年11月)	⑦,⑩,⑫,⑬	⑦-47,⑩-47,⑫-47,⑬-47	○
48	安威川ダム自然環境保全対策検討業務委託報告書 (大阪府安威川ダム建設事務所 平成15年3月)	②	②-24	○
49	平成13年度佐保川自然環境調査業務委託報告書 (平成14年3月) 平成14年度佐保川自然環境調査業務委託報告書 (平成15年3月) 平成14年度佐保川自然環境調査業務委託 (その2) 報告書 (平成15年3月)	⑪	⑪-46	○

\*1: 対応河川No.を下記に示す。  
 ①: 神崎川、②: 安威川、③: 天竺川、④: 兎川、⑤: 高川、⑥: 大正川、⑦: 山田川、⑧: 糸田川、  
 ⑨: 上の川、⑩: 茨木川、⑪: 佐保川、⑫: 勝尾寺川、⑬: 川台裏川  
 \*2: 資料番号は、「対応河川No.」-「文献No.」とする。  
 \*3: 位置情報「○」は、位置情報のあるもの。「△」は、位置情報がおおまか(大阪北部等)なもの。  
 「×」は、位置情報のないもの。「不明」は、原典未入によるもの。



調査実施状況の一覧表／神崎川

項目	河川名	神崎川	
	資料番号	①-4	①-5
植物			
哺乳類			
鳥類			
爬虫類			
両生類			
昆虫類			
魚類		H4.11 7地点 目視観察、 任意採集	H9.11 7地点 目視観察、 任意採集
底生動物		H4.11 7地点 定量採集、 任意採集	H9.11 7地点 定量採集
付着藻類			H9.11 2地点3ヶ所 定量採集

調査実施状況の一覧表／安威川

項目	河川名 資料番号	安威川															
		②-14	②-15	②-16	②-17	②-18	②-20	②-21	②-22	②-23	②-24						
植物			S60.9 95地点 植生調査													安威川ダム総合開発事業に係る環境影響評価書	安威川ダム自然環境保全対策委員会
哺乳類																	
鳥類			S60.12 13区間 不明														
爬虫類								H4.5 11地点 (池、休耕田) 任意観察 H4.6 11地点 (池、休耕田) 任意観察 H4.10 11地点 (池、休耕田) 任意観察									
両生類								H4.5 11地点 (池、休耕田) 任意観察 H4.6 11地点 (池、休耕田) 任意観察 H4.10 11地点 (池、休耕田) 任意観察									
昆虫類																	
魚類		S59.9 3地点 潜水観察、 任意採集 S59.12 11地点 潜水観察、 任意採集 S60.2 11地点 潜水観察、 任意採集 S59.9 2地点 潜水観察 (潜水観察) S59.10 2地点 潜水観察 (潜水観察)	S60.12 5地点 任意採集	S61.5 7地点 任意採集 S61.8 7地点 潜水観察、 任意採集	H2.12 12地点 目視観察、 任意採集	H4.6 3地点 目視観察、 任意採集 H4.9 3地点 目視観察、 任意採集		H7.6 2地点 目視観察、 任意採集 H7.11 2地点 目視観察、 任意採集 H8.1 5地点 目視観察、 任意採集 H8.2 2地点 目視観察、 任意採集				H10.10 5地点 目視観察、 任意採集					
底生動物		S59.9 3地点 定量採集 S59.12 11地点 定量採集 S60.2 11地点 定量採集		S61.5 7地点 定量採集、 任意採集 S61.8 7地点 定量採集、 任意採集	H2.9 5地点 定量採集 H2.12 12地点 定量採集	H4.6 3地点 定量採集 H4.9 3地点 定量採集 H4.11 3地点 定量採集		H7.6 2地点 定量採集 H7.11 2地点 定量採集 H8.1 5地点 定量採集 H8.2 2地点 定量採集				H10.10 5地点 定量採集					
付着藻類		S59.10 S59.10～S60.1 S59.12 S60.2 上記の期間で、 11地点 定量採集		S61.5 7地点 定量採集 S61.8 7地点 定量採集	H2.9 6地点 定量採集			H7.6 2地点 定量採集 H7.11 2地点 定量採集 H8.1 5地点 定量採集 H8.2 2地点 定量採集									

\*不明：調査方法等の記述無く、不明。  
\*資料番号：②-22は、既出報告書類をまとめたもの。そのうち、文献リスト上にない報告書のデータ分を記載する。

調査実施状況の一覧表／天竺川、<sup>うさぎ</sup>兔川、高川

項目	河川名 資料番号	天竺川			兔川	高川		服部緑地公園
		③-6	③-27	③-28	③-29	④-6	⑤-6	⑤-29
植物		不明						
哺乳類								
鳥類							H9.12 3地点(池) 不明	H10.5 1地点 不明
爬虫類								
両生類								
昆虫類								
魚類		H6.9 3地点 任意採集	H13.9 3地点 定量採集					
底生動物		H6.9 3地点6ヶ所 定量採集	H13.9 3地点6ヶ所 定量採集					
付着藻類		H6.9 3地点 定量採集						

\*不明：原典未入により、不明。

\*服部緑地公園は河川ではないが、天竺川、高川に挟まれた空間で、文献No.29「ホームページ 和田の鳥小屋」に情報があり、資料番号は、「③,⑤-29」とし、記載する。

調査実施状況の一覧表／茨木川、佐保川、<sup>かつおじ</sup>勝尾寺川、川合裏川

項目	河川名 資料番号	茨木川	佐保川				勝尾寺川				川合裏川		奥池
		⑩-47	⑪-4	⑪-42	⑪-43	⑪-44	⑫-4	⑫-42	⑫-44	⑫-47	⑬-44	⑬-47	⑪,⑫-44
哺乳類					H7.6 3ルート フィールドサウ調査								
鳥類					H7.6 3ルート 任意観察								
爬虫類					H7.6 3ルート 任意観察								
両生類					H7.6 3ルート 任意観察								
魚類		H14.9 1地点 任意採集	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 4地点 任意採集		S63.5 10地点 (上記中、 5地点は池) 定量採集 S63.8 10地点 (上記中、 5地点は池) 定量採集	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 3地点 任意採集	S63.5 4地点 (上記中、 2地点は池) 定量採集 S63.8 4地点 (上記中、 2地点は池) 定量採集	H14.9 1地点 任意採集	S63.5 3地点 (上記中、 1地点は池) 定量採集 S63.8 3地点 (上記中、 1地点は池) 定量採集	H14.9 1地点 任意採集	S63.5 1地点(池) 定量採集 S63.8 1地点(池) 定量採集
底生動物		H14.9 1地点 定量採集	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 4地点 定量採集	H7.6 3ルート 任意採集	不明	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 3地点 任意採集		H14.9 2地点 任意採集	不明	H14.9 1地点 任意採集	不明
付着藻類			H4.9 3地点 定量採集	H9.11 4地点5ヶ所 定量採集		不明	H4.9 3地点 任意採集	H9.11 3地点 任意採集			不明		不明

\*不明：調査日等の記述無く、不明（記載分に関しては表に記した）。

\*奥池は佐保川、勝尾寺川の間であり、文献No.44「国際文化公園都市建設事業に係る環境影響評価（現況調査）業務 水生生物編」に情報があるが、どちらの河川に属するのか不明の為、資料番号は、「⑪,⑫-44」とし、記載する。

調査実施状況の一覧表／大正川、山田川、糸田川、<sup>かみ</sup>上の川

項目	河川名 資料番号	大正川			山田川	糸田川	上の川
		⑥-31	⑥-32	⑥-64	⑦-47	該当資料無し	該当資料無し
哺乳類							
鳥類				不明(繁殖期) 1ルート ライセンス			
				不明(越冬期) 1ルート ライセンス			
爬虫類							
両生類							
魚類		H5.8 3地点 任意採集	H13.8 1地点 定量採集		H14.9 1地点 任意採集		
底生動物		H5.8 3地点 定量採集	H13.8 1地点2ヶ所 定量採集		H14.9 1地点2ヶ所 定量採集		
付着藻類		H5 2地点3ヶ所 定量採集					

\*不明：原典未入により、不明。



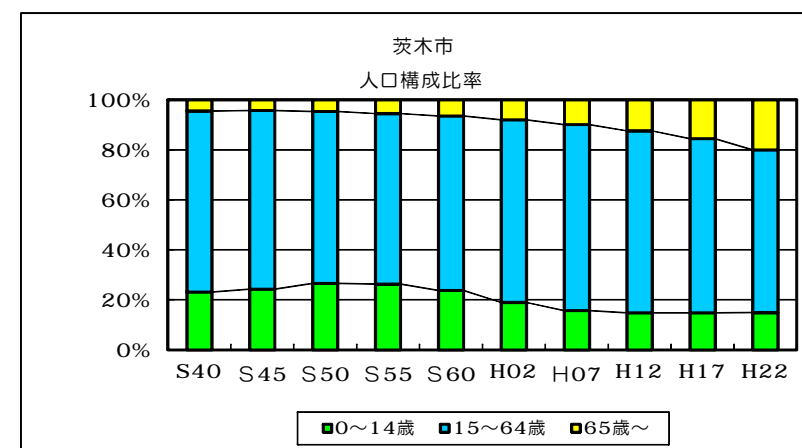
(2) 社会環境特性

神崎川ブロックは、交通の要衝として発達するとともに、昭和35年からの丘陵開発を契機とした急激な人口増加により急速な都市化が進み、府域でも社会の成熟化が進んだ地域です。また都市化に伴い森林や田畑などが急速に減少した地域でもあります。近年では、地域住民のまちづくりへの参加の機運や都市における貴重なオープンスペース・自然環境としての河川に対する意識が高まり、美化活動や川を活かしたまちづくりの提言など、地域住民や自治体・企業体・NPOなどが中心となって主体的な取り組みが進んでいる地域です。

① 人口

流域関係市の人口（平成22年国勢調査）はおよそ204万人（大阪市は東淀川区、淀川区、西淀川区のみ）です。流域関連市の人口は昭和45年までは急増しており、特に昭和35年から行われた千里ニュータウン開発により摂津市、吹田市および豊中市の人口は大きく増加しました。その後、緩やかな増加をつづけ、平成2年の国勢調査において200万人を越えました。その後、流域関係市の人口はあまり変化がみられませんが、少子、高齢化などの影響によりその構成は変化しています。

各市別に平成17年と22年の国勢調査を比較すると、淀川区・西淀川区・豊中市・吹田市・茨木市・箕面市・高槻市は1～3%の増加、東淀川区・摂津市は1～2%の減少が見られます。



茨木市の人口構成の変化

人口

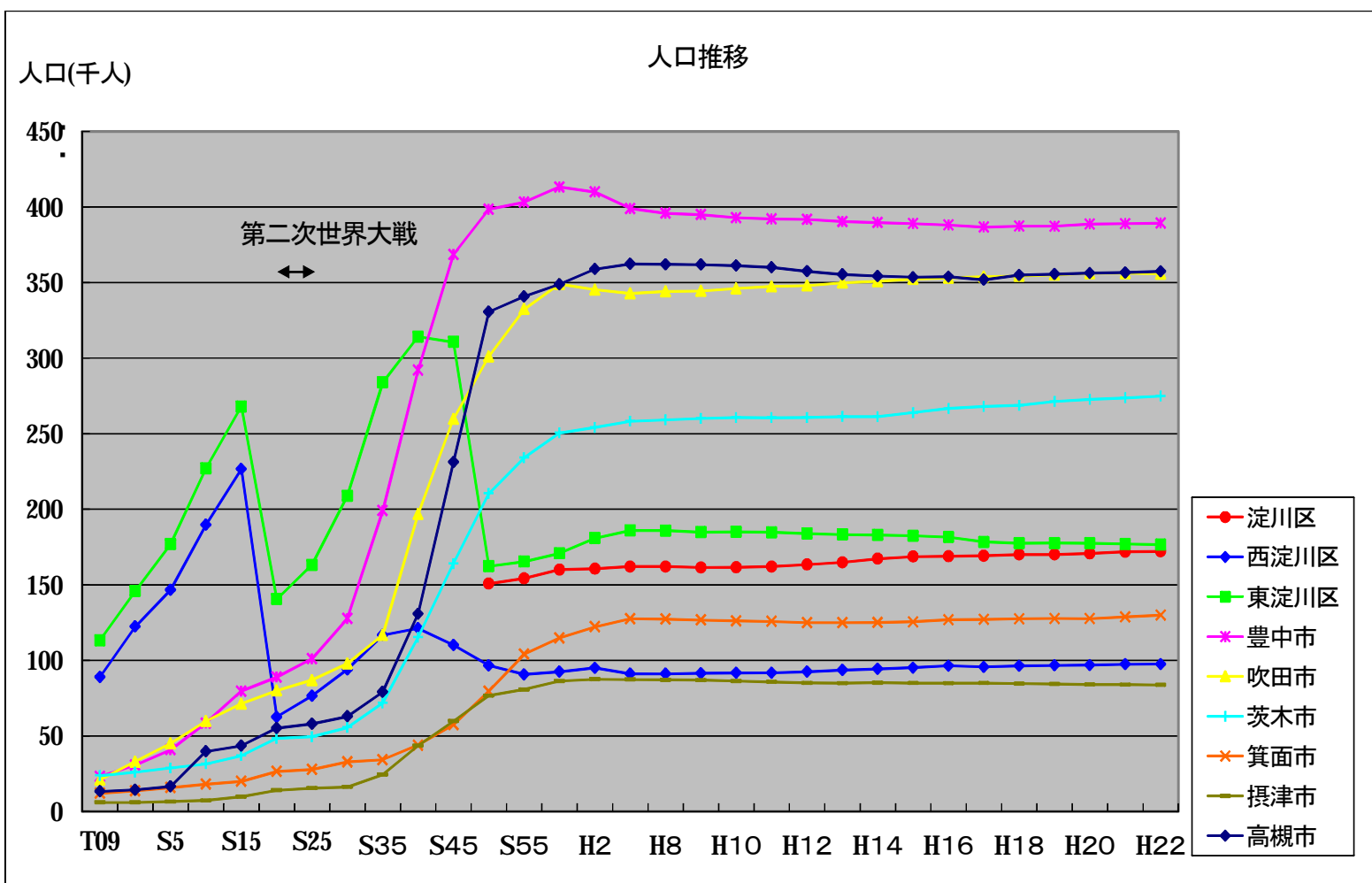
市	平成17年 人	平成22年 人	人口増加率 %
大阪市	2,628,776	2,665,314	+1
淀川区	169,215	172,078	+2
西淀川区	95,621	97,504	+2
東淀川区	178,357	176,585	-1
3区合計	443,193	446,167	+1
豊中市	386,633	389,341	+1
吹田市	353,853	355,798	+1
箕面市	127,132	129,895	+2
茨木市	267,976	274,822	+3
摂津市	84,997	83,720	-2
高槻市	351,803	357,359	+2
6市3区の合計	2,015,587	2,037,102	+1
大阪府	8,817,010	8,865,245	+1

国勢調査結果より

+ 市町村の統廃合について

淀川区は昭和49年に東淀川区より分区  
昭和25年以前の国勢調査結果は各市町区は現在の市町村に合併、分区を考慮している。ただし、市町村界の変更に伴う人口の移動は考えていない。新田村は分割して豊中市と吹田市に吸収されたため考慮していない。豊中市は豊中町、豊中村、麻田村、桜井谷村、熊野田村、中豊島村、南豊島村、小曾根村、庄内町を含む。吹田市は吹田町、千里村、岸部村、豊津村、山田村を含む。茨木市は茨木町、三島村、春日村、玉櫛村、安威村、玉島村、溝咋村、宮島村、福井村、石河村、見山村、清溪村、三宅村を含む。箕面市は箕面町、箕面村、止々呂美村、萱野村、豊川村を含む。摂津市は三島町、味舌町、味舌村、味生村、鳥飼村を含む。高槻市は高槻町、阿武野村、五領村、三箇牧村、富田町、富田村を含むが、京都府樺田村は含まない。

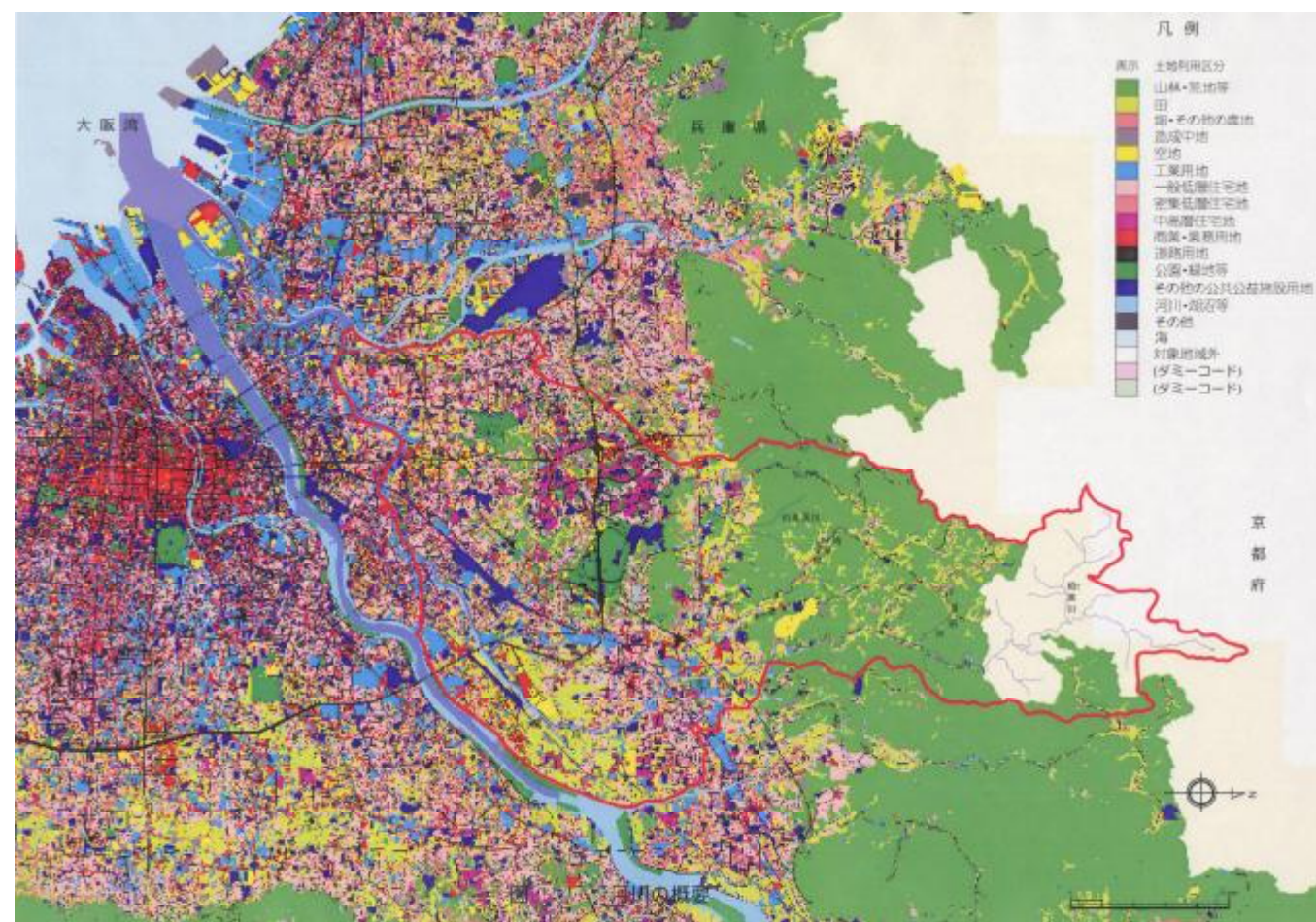
出典：国勢調査 H17 年、H22 年、大阪府総務部統計課「大阪府の人口」、国勢調査報告 昭和25年



② 土地利用

下流の低平地は古くより市街地や農地が広がっていましたが、現在ではそのほとんどが宅地化しています。丘陵部はかつて山地丘陵であった高標高の範囲まで宅地やゴルフ場などの開発が進んでいます。上流部には山地が大きく広がり、河川沿い等に平地や集落等が分布しています。

土地利用図 昭和49年(1974年)



出典：建設省国土地理院(平成11年)

土地利用図 平成8年(1996年)

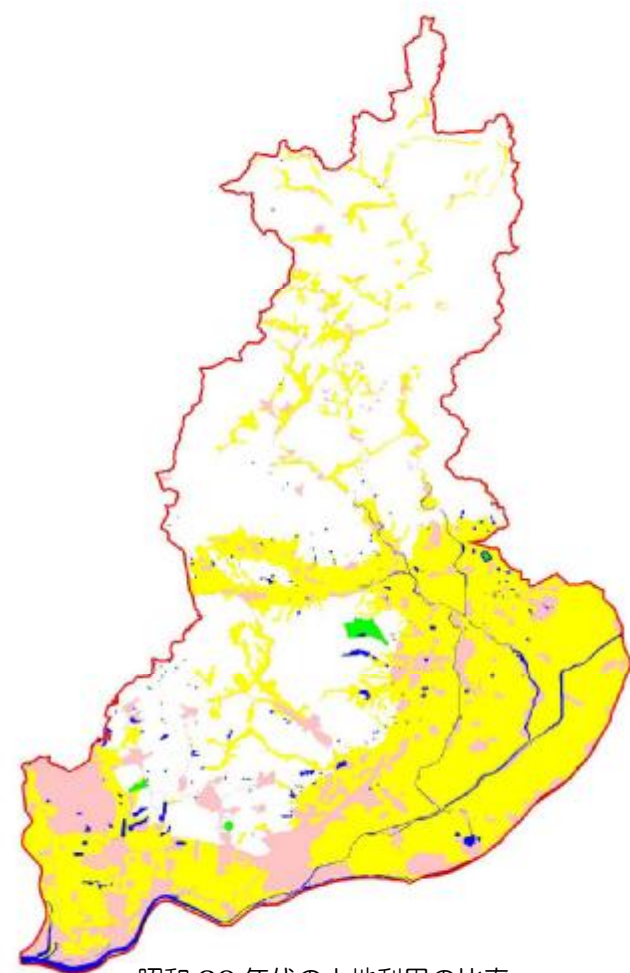


出典：建設省国土地理院(平成11年)

昭和20年代、昭和40年代、平成10年代の土地利用の変遷を見ると、昭和20年代には流域の34.0%を占めていた田畑が平成10年代には6.4%に減少しています。多くが田畑であった神崎川沿いや、安威川中下流部のほとんどが市街地化されました。田畑とともにたくさんあったため池も市街地化により埋め立てられ減少しています。昭和35年～44年の千里ニュータウン開発、昭和45年の万国博覧会等の丘陵地開発により、昭和20年代には11.7%であった市街地が平成10年代には52.9%まで増加しています。

現在、箕面市から茨木市にかけての丘陵部で国際文化公園都市の開発が進められています。

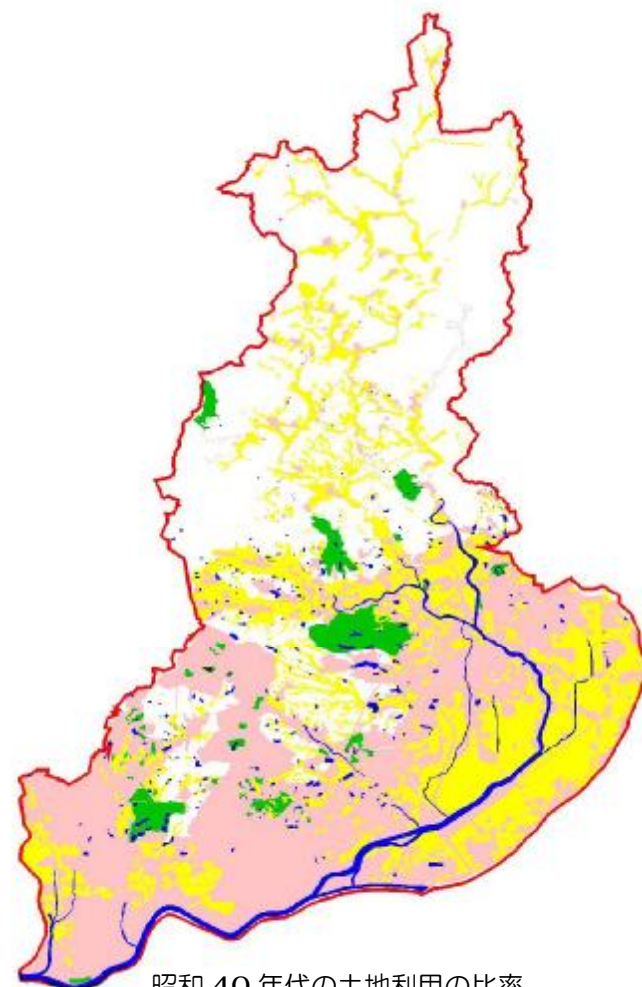
昭和20年代



昭和20年代の土地利用の比率

市街地	田畑	水面	公園・丘陵 ゴルフ場等	山林
11.7%	34.0%	2.1%	0.3%	52.0%

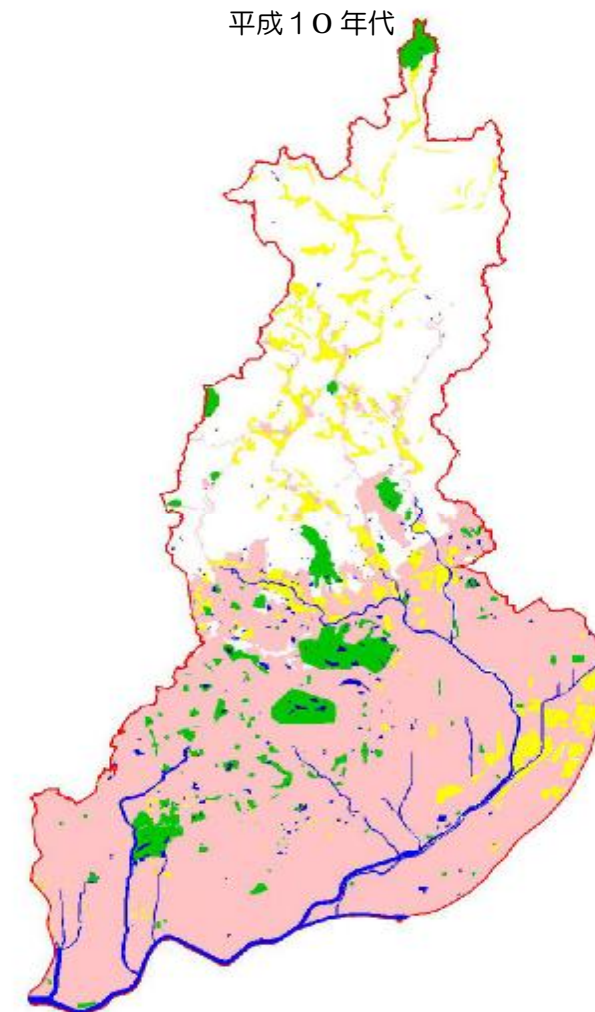
昭和40年代



昭和40年代の土地利用の比率

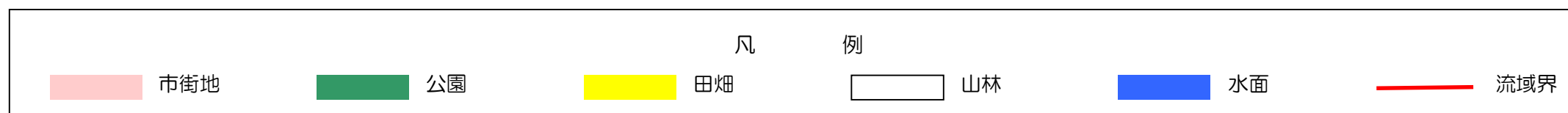
市街地	田畑	水面	公園・丘陵 ゴルフ場等	山林
33.1%	21.7%	2.7%	3.0%	39.4%

平成10年代



平成10年代の土地利用の比率

市街地	田畑	水面	公園・丘陵 ゴルフ場等	山林
52.9%	6.4%	2.5%	5.0%	33.2%

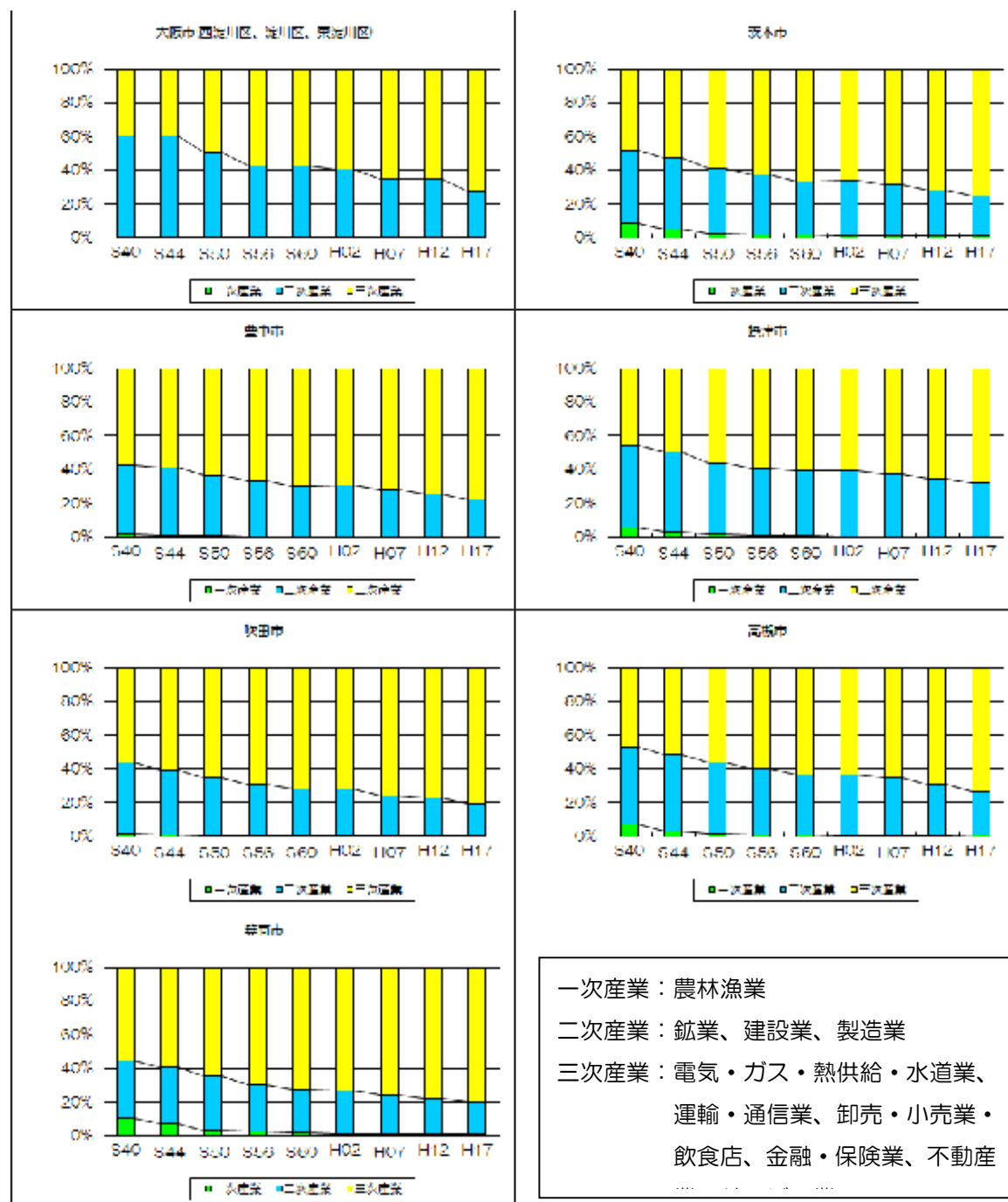


③ 産業

関連市の就業人口数の推移は、第3次産業が増加傾向を示す一方、第1次、2次産業は横這いかや減少する傾向にあります。また、各市の産業別就業者比率をみると、いずれも第3次産業が大部分を占めています。

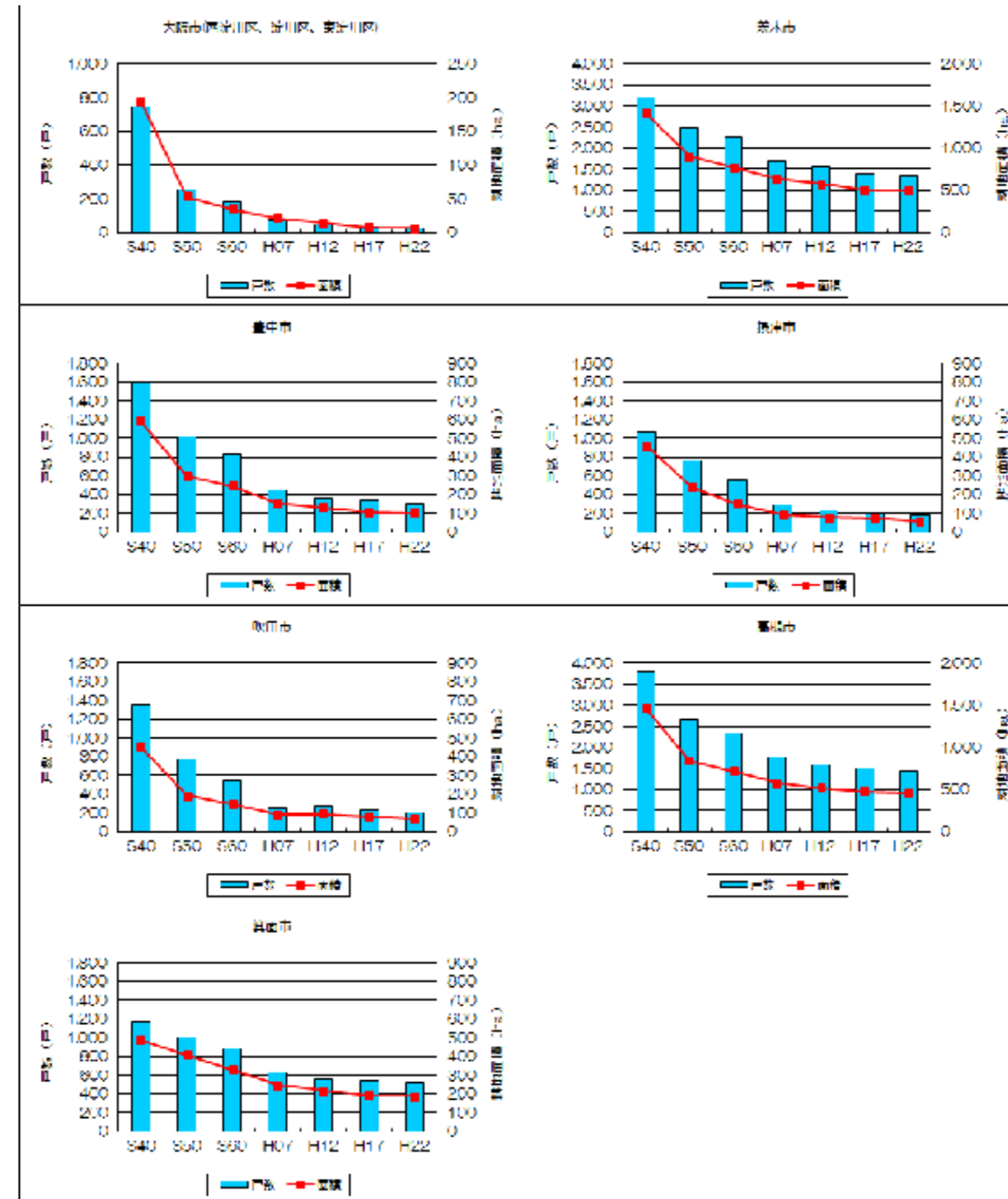
農業については、農家戸数、経営耕地面積ともに減少傾向にあります。

産業大分類別就業人口の推移



出典：大阪府統計資料、大阪市統計書

農業戸数、経営耕地面積の推移

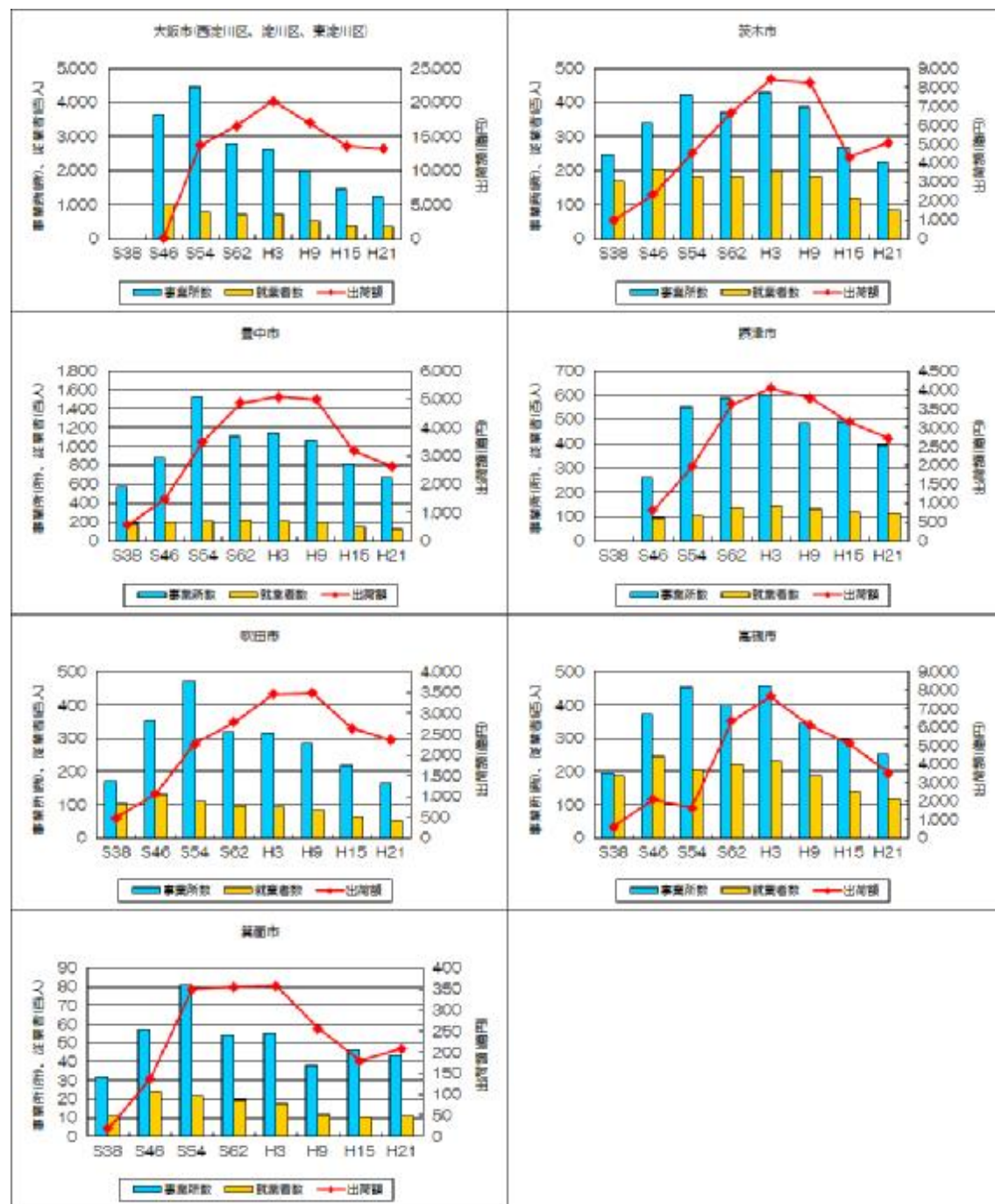


出典：大阪府統計資料、大阪市統計書

工業については、事業所数、就業者数ともにバブル崩壊と産業空洞化の影響を受けて平成3年をピークに減少しています。

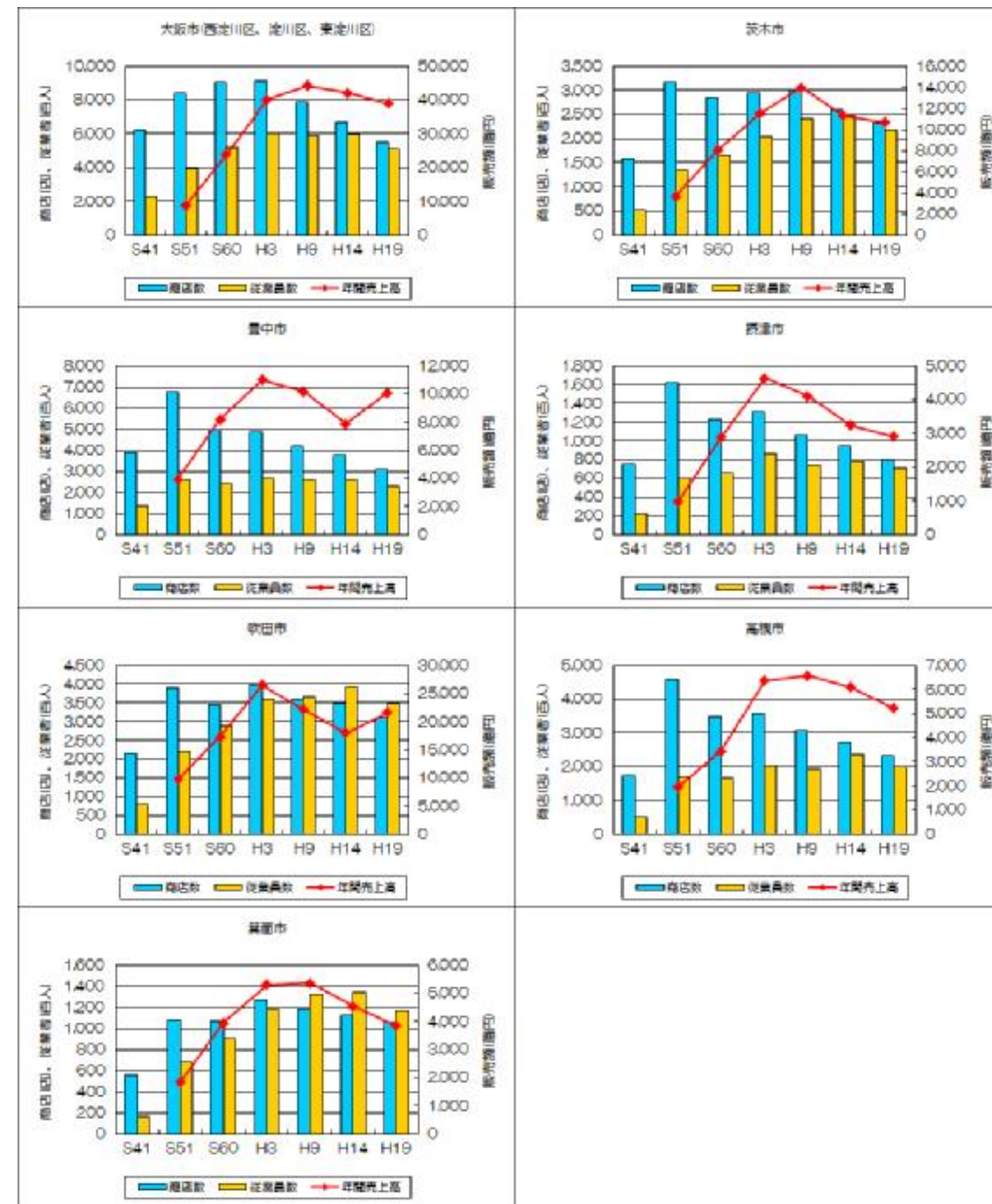
商業については、商店数・従業員数・年間売り上げ高はバブル期の平成3年または平成9年をピークとして近年は減少傾向にあります。

事業所数、従業員数、出荷額の推移



出典：大阪府統計資料 大阪市統計書

商店数、従業員数、売上高の推移



出典：大阪府統計資料 大阪市統計書

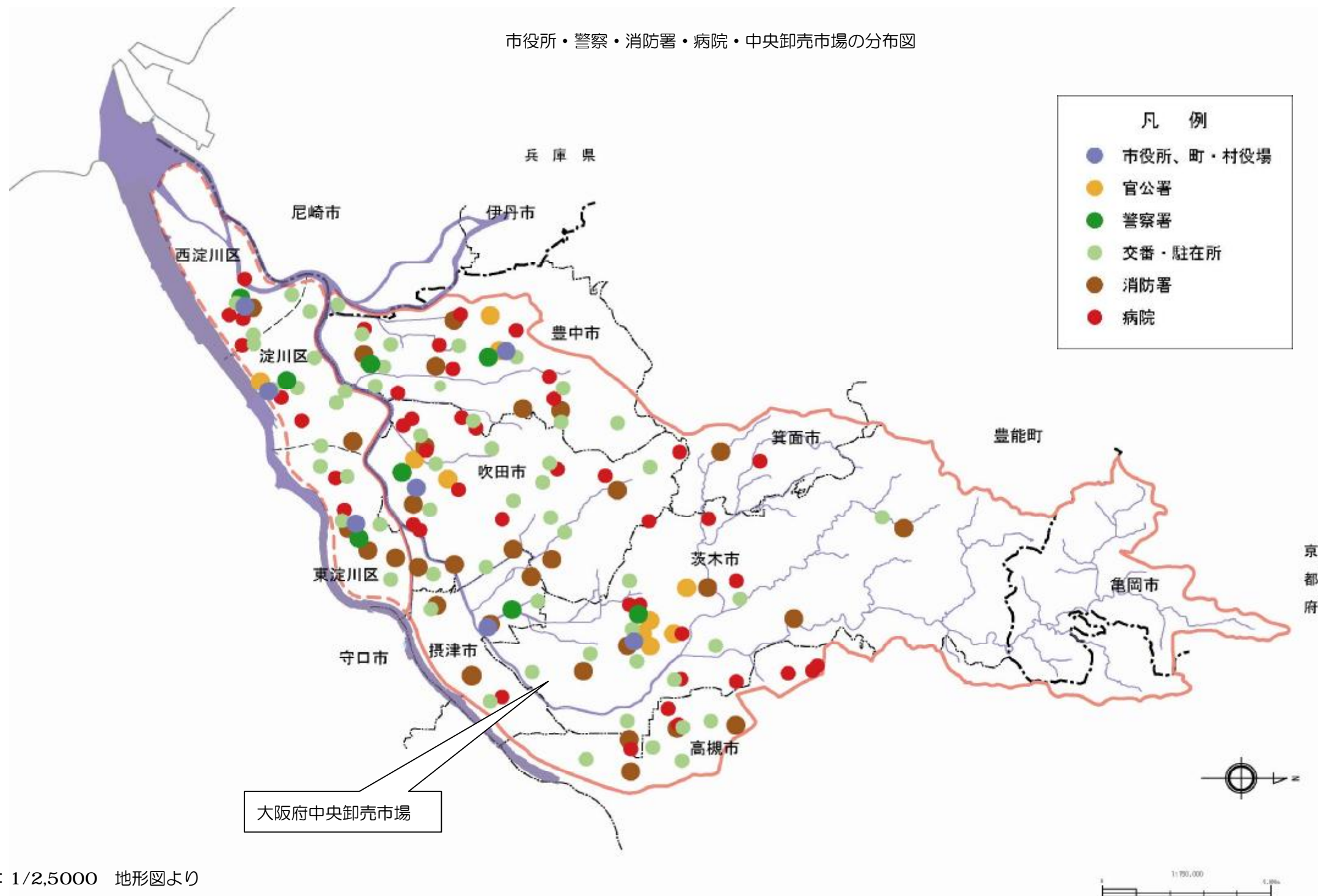


④ 公共施設

神崎川ブロック内には豊中市、吹田市、茨木市、摂津市の市役所が位置しています。各市の消防署は、豊中市が2箇所、吹田市が4箇所、茨木市と摂津市は各1箇所あります（出張所を除く）。警察署は5箇所（豊中、豊中南、吹田、摂津、茨木）配置されています。これらの警察署に加え箕面警察署と高槻警察署の派出所が神崎川ブロックに数多く配置されています。

特徴的な施設としては、『府民の台所を支える総合食品供給基地』として大阪府中央卸売市場が茨木市に開設されています。

流域内には市役所、警察、消防署、病院などの様々な公共施設が存在しています。また、水道、電力、ガス、下水道などのライフラインも数多く配置されています。



⑤ レクリエーション施設

丘陵地や山地部を中心に青少年野外活動センターや公園等が分布しています。また、府内でも比較的森林に恵まれた地域であることから、府民の森林性レクリエーションの場としても活用されており、山地内には東海自然歩道等が整備されています。

市街地が形成されている下流域には、万国博覧会記念公園や<sup>ほっとり</sup>服部緑地、<sup>にしかわら</sup>西河原公園など比較的大きな公園も整備され、地域の人々の憩いの場となっています。



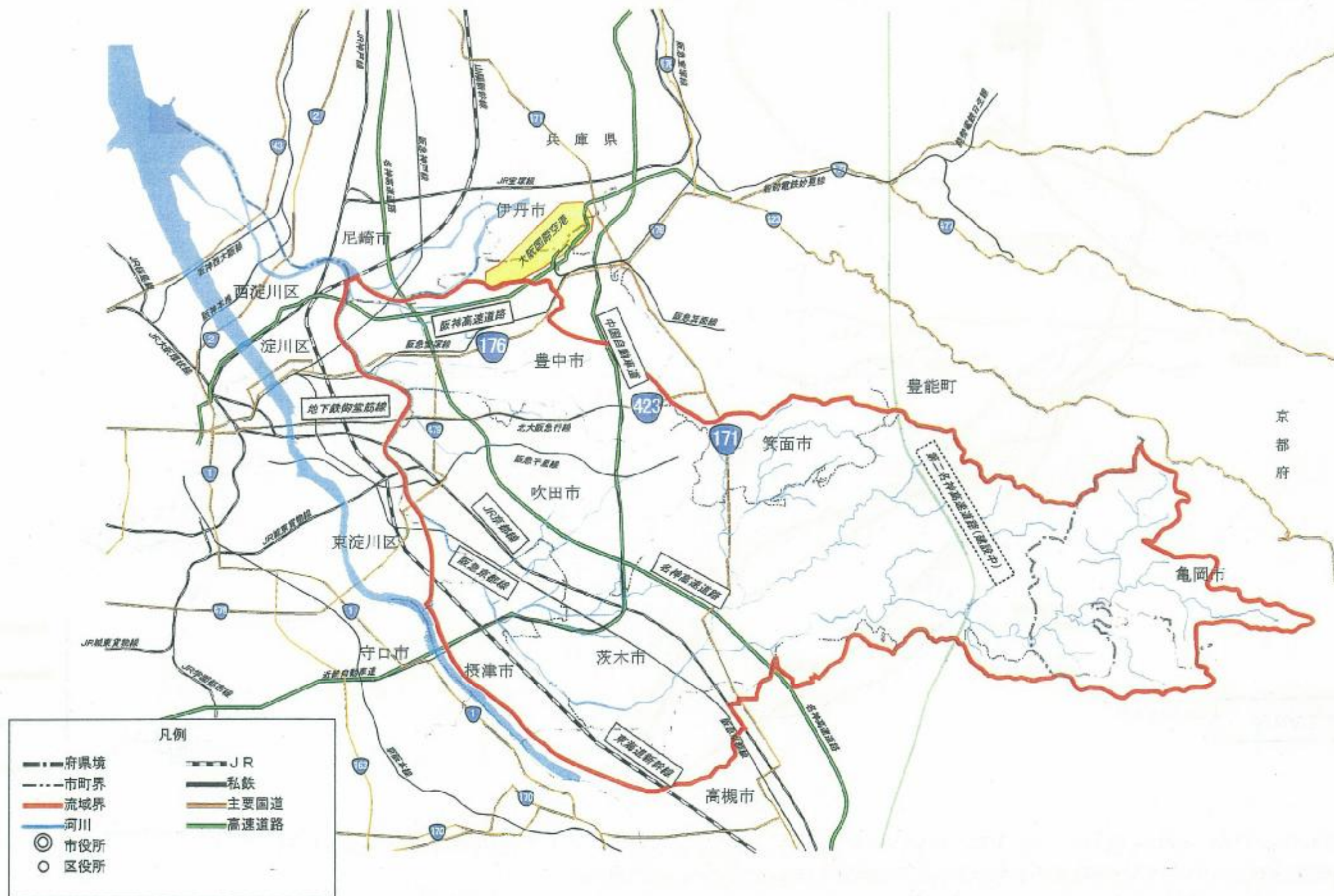
凡 例		
番号	施設名	位置
1	青少年野外活動センター	茨木市
2	キリシタン遺物史料館	//
3	龍仙の滝	//
4	龍仙峡	//
5	竜王山展望台	//
6	郡山宿本陣	//
7	耳原公園	//
8	西河原公園	//
●●●●●9●●●●●	元茨木川緑地	//
10	水尾公園	//
11	嘉円公園	//
12	青少年運動公園	//
13	平和公園	吹田市
14	正雀ちびっこ交通公園	//
15	国立民族学博物館	//
16	万博記念公園	//
17	市場池 オアシス広場	//
18	紫金山公園	//
19	垂水上池公園	//
20	中の島公園	//
21	江坂公園	//
22	桃山公園	//
23	千里北公園	//
24	千里南公園	//
25	千里緑地	吹田市・豊中市
26	千里中央公園	豊中市
27	二ノ切公園・温水プール	//
28	日本民家集落博物館	//
29	都市緑化植物園	//
30	<sup>ほっとり</sup> 服部緑地	//
31	大塚公園	//
— 32 —	東海自然歩道	

写真出典：茨木市役所 HP、吹田市役所 HP より  
大阪府観光連盟 HP より

⑥ 交通

流域には我が国の国土軸となる重要な交通網が整備されています。都市基盤である一般国道（R171、R176、R423 など）、府道（大阪中央環状線など）をはじめ、大阪市中心部と京阪神を結ぶ阪神高速道路、さらには首都圏、中京圏、中四国方面へアクセスする名神高速道路、中国自動車道および近畿自動車道等の道路網が整備されています。

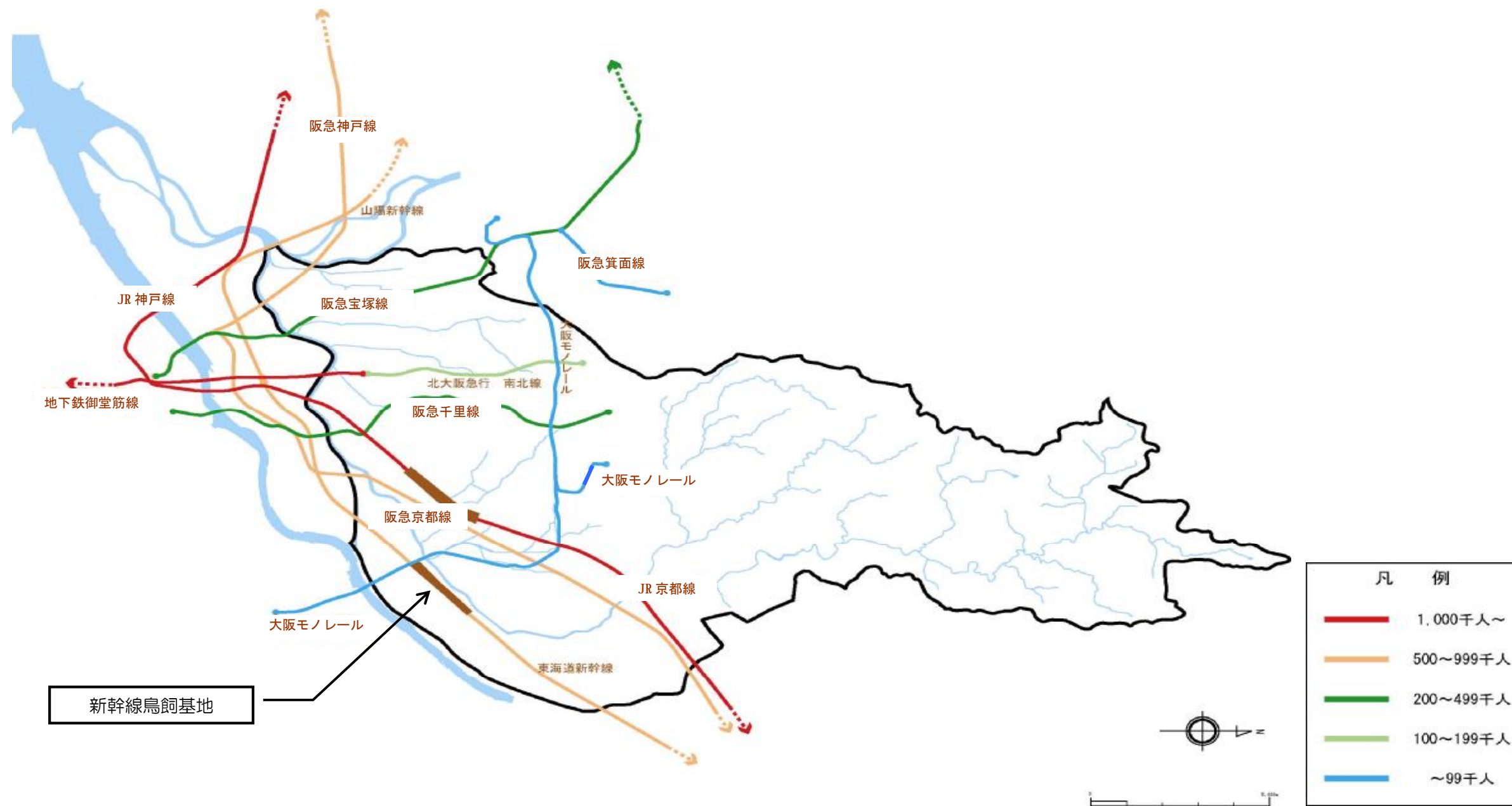
鉄道網についても東海道新幹線、山陽新幹線、JR京都線、阪急京都線、阪急宝塚線、阪急千里線、阪急神戸線、阪神本線、阪神西大阪線および地下鉄御堂筋線が大阪市に向けて求心的に走り、大阪中央環状線沿いに大阪モノレールも整備されています。更に大阪モノレールは、万国博覧会記念公園から国際文化公園都市に向けて整備が進められています。また大阪国際空港も流域境界に位置しています。



1) 鉄道

流域を通る鉄道のうち、JR京都線・神戸線（石山～神戸間）が最も旅客人員が多く、一日あたりの旅客数は1,754（千人／日）です。次いで地下鉄御堂筋線（江坂～なかもず間、1,258千人／日）、阪急電鉄京都線（梅田～河原町、687千人／日）、阪急電鉄神戸線（梅田～三宮、582千人／日）となっています。なお東海道・山陽新幹線（東京～博多間）の旅客数は516千人／日となっています。

流域内の鉄道利用状況図

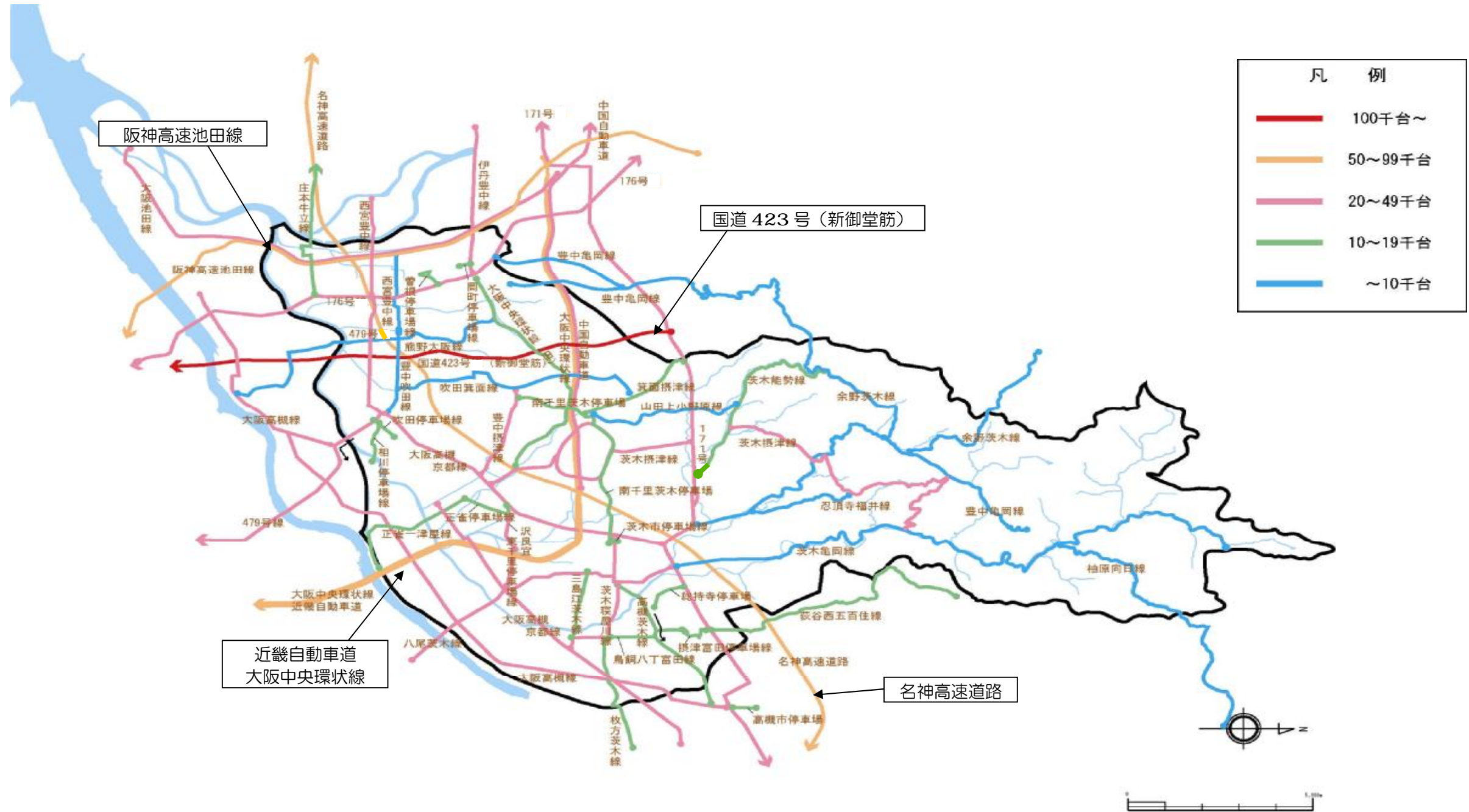


（在来線） 年度：平成12年度の旅客数、区間：全線、出典：平成14年版 都市交通年報／監修 国土交通省総合政策局／発行 （財）運輸政策研究機構 鉄・軌道およびバスの主要企業体別、路線別年間輸送人員の推移鉄・軌道およびバスの主要企業体別、路線別年間輸送人員の推移より  
 （新幹線） 年度：平成12年度の全線の旅客数、区間：全線、出典：数字で見る鉄道2002／監修 国土交通省鉄道局／発行 （財）運輸政策研究機構より

2) 道路

流域内の道路のうち国道423号（新御堂筋）が最も交通量が多く、一日あたり128,723台の自動車が行き交っています。次いで近畿自動車道（94,040台/日）、名神自動車道（88,159台/日）、大阪中央環状線（86,631台/日）、阪神高速池田線（85,138台/日）となっています。

流域内の道路利用状況図



出典：平成11年度道路交通センサス、平日、複数調査地点がある場合は流域内の平均値、流域内に存在しない場合は近隣の調査地点

(3) 歴史文化

① 神崎川

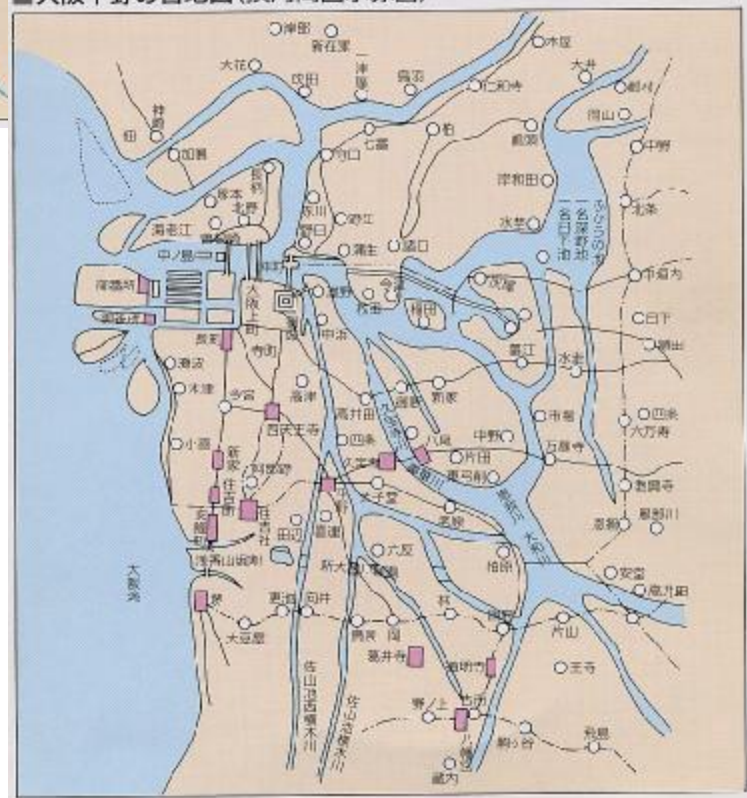
神崎川は古代から中世にかけて三国川と呼ばれ、「続日本紀」にもその名前がみられますが、江戸時代の絵図・文献には神崎川と記されています。現淀川区の神崎橋付近にあった、神崎の渡が中世には河港として栄え、河関が置かれていたので、この辺りの神崎川という通称は中世末期から江戸時代にかけて定着したと考えられます。

大阪平野の古地図



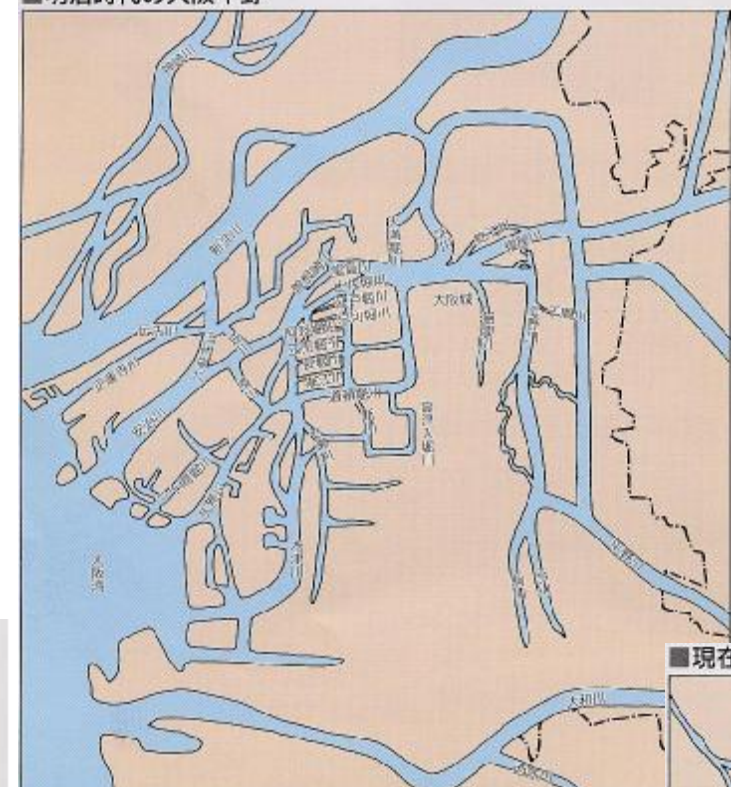
縄文時代前期、大阪平野は内海の一部でした。北摂地域において神崎川はまだ形成されていませんでした。  
奈良時代、神崎川下流に三角州の成長が進み水田開発が始まりました。  
785年に桓武天皇により三国川と淀川をつなぐ工事が行われ、今の神崎川の原型ができあがったと言われています。

大阪平野の古地図(摂河両国水脈図)



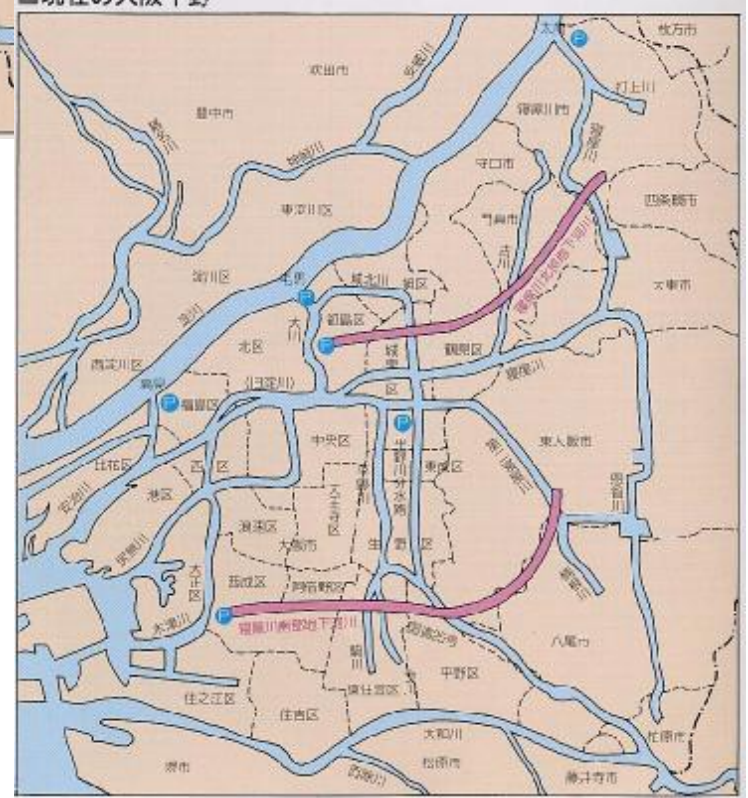
江戸時代には河川海上交通の航路として、神崎川・安威川では貨客輸送船をはじめ肥料を運搬する屎船や渡船が活躍しました。  
その一方で低湿地のため、洪水、河水の逆流、悪水の滞留によりたえず悩まされていました。

明治時代の大阪平野



明治8年、オランダ人技師デ・レーケによる淀川改修事業が着手され、明治11年には神崎川の付替えが竣工しました。

現在の大阪平野



出典：「治水のあ・ゆ・み」大阪府、「大阪府の地名」平凡社より

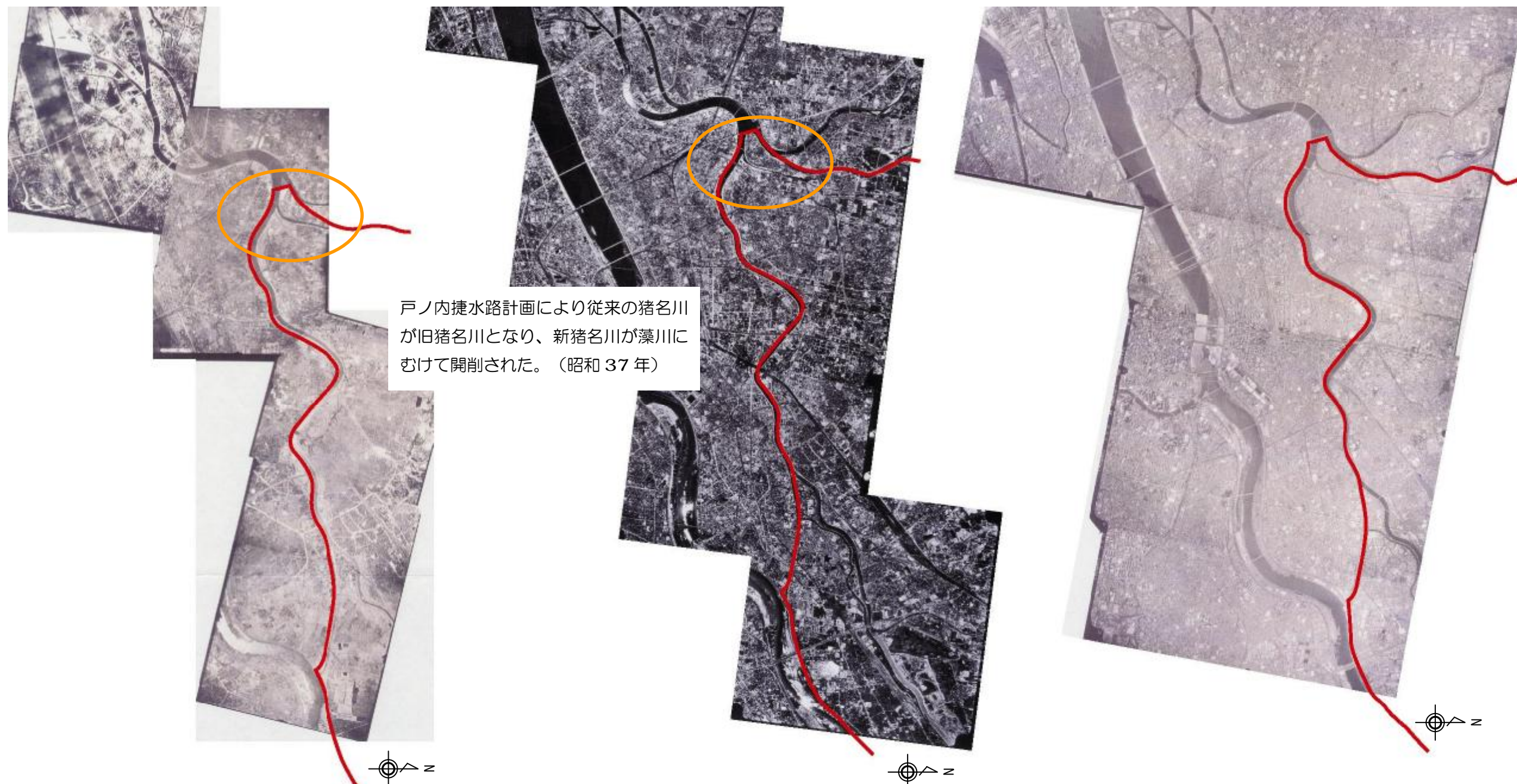
○ 猪名川

歴史上多くの水害をもたらしてきた猪名川は、明治期から堤防改修工事などが実施されましたが、根本的な対策が遅れていました。

戦時中も上流多田村虫生（現川西市）へのダム建設および猪名川の締切りにより藻川を拡幅、幹川とする河道改修工事が1940年（昭和15年）に開始されましたが、工事はほとんど進みませんでした。戦後になり計画が見直され、ダム建設を中止して猪名川・藻川の河道改修方式に変更、まず藻川改修に着手しました。

1959年（昭和34年）には、神崎川に合流する猪名川下流部を戸ノ内の東から西に移す「戸ノ内捷水路計画」が開始され、1962年（昭和37年）に完成しました。（『尼崎地域史事典』「猪名川改修工事」の項目より）

戸ノ内捷水路計画により従来の猪名川が旧猪名川となり、新猪名川が藻川にむけて開削されました。



戸ノ内捷水路計画により従来の猪名川が旧猪名川となり、新猪名川が藻川にむけて開削された。（昭和37年）

昭和20年代の神崎川（米軍撮影）

昭和46年（1971年）の神崎川（国土地理院撮影）

平成13年（2001年）の神崎川（国土地理院撮影）

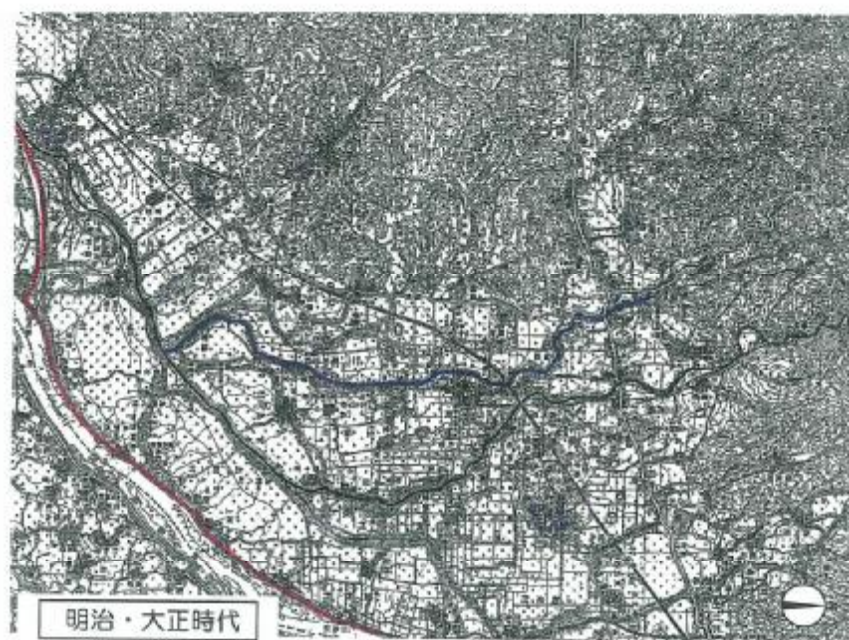
② 安威川

安威川流域は藍の栽培地で、藍野・藍原（日本書紀）と呼ばれ、阿為（延喜式神名帳）・安井（玉葉）・藍（皆川文書）・阿威（元享秩書）・阿井（撰陽郡談）とも書きますが、地名は「和名抄」の安威郷にちなんでいるといわれます。

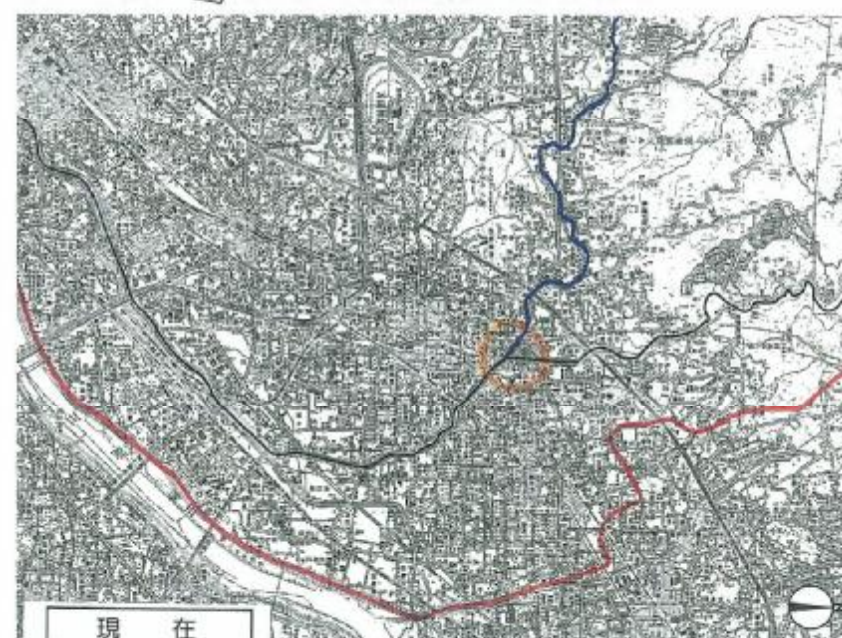
安威川の右支川である茨木川は土砂流が多く、昔より大きな災害に見舞われてきました。

江戸時代から昭和初期まで頻繁に水害を被ってきたようで、高橋などは何度も落下した記録が残されています。また安威川、茨木川ともに決壊するような大きな洪水がたびたび発生していたようです。

昭和7年の洪水を機に府に対して安威川と茨木川の治水に関する嘆願書が提出され、さらに昭和10年の洪水を契機に府知事自ら上京して内務省に窮状を訴え、茨木川を茨木市田中町付近で安威川に合流させ、安威川の断面を拡幅する工事が着手されました。昭和12年には茨木川の流路（現在の元茨木川緑地）が変更され、安威川に合流されました。この改修工事は昭和18年まで大規模に進められました。



茨木川と安威川の統合（昭和12年）



（茨木川と安威川の統合は、まだ地形図上には反映されていない。）

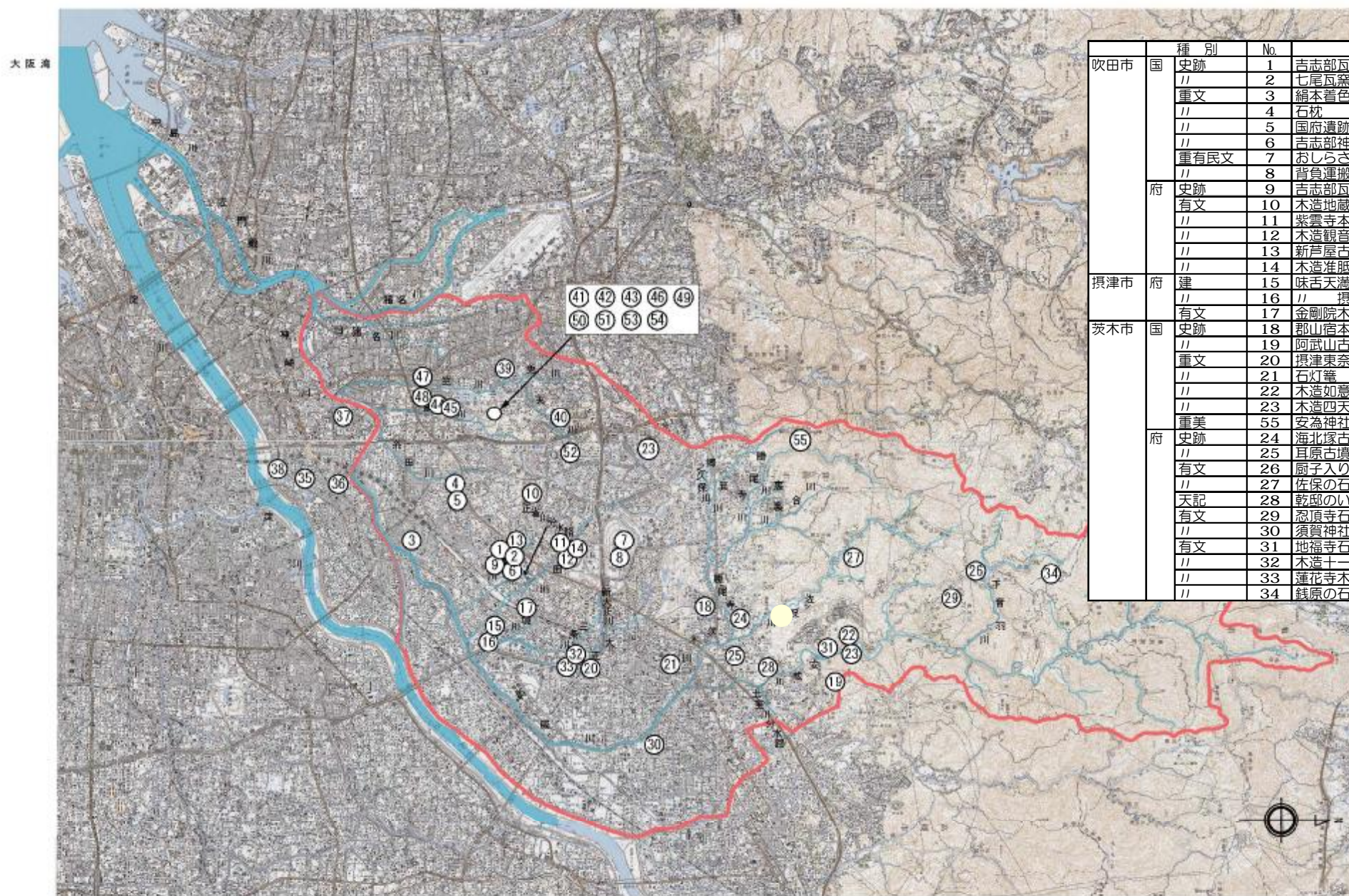


③ 文化財

ブロック内には、52箇所もの文化財が点在します。4～5世紀末にかけて形成された桜塚古墳群(国史跡ほか)をはじめ、平安京造営の際に宮殿の瓦を大量に生産したとされる吉志部瓦窯跡や七尾瓦窯跡等があり当時は窯業地帯であったことを示しています。さらに時の権力者によって建立された寺院や神社も数多くあります。また江戸時代には京都から西宮に通じる西国街道には郡山宿本陣があり、1721年に再建された建物が今も残っています。

文化財箇所数一覧表

	国指定	府指定	合計
豊中市	9	7	16
吹田市	8	6	14
摂津市	0	3	3
茨木市	7	11	18
箕面市	1	0	1
合計	25	27	52



市町村	種別	No.	名称	市町村	種別	No.	名称
吹田市	国	1	吉志部瓦窯跡	大阪府	府	35	摂津県改称豊崎県庁跡
		2	七尾瓦窯跡			36	須賀神社跡のくす
		3	絹本着色般若菩薩像		37	渡辺邸	
		4	石枕		国	38	水道記念館
		5	国府遺跡出土品			39	桜塚古墳群 大塚古墳 南天平塚古墳
		6	吉志部神社本殿		40	石造三重宝篋印塔	
		重有民文	7		おしらせさまコレクション	41	旧泉家住宅
			8		背負運搬具コレクション	42	旧山田家住宅
	府	9	吉志部瓦窯跡(工房跡)		43	旧榎葉家住宅	
		10	木造地藏菩薩立像		44	紙本金地着色仙人掌群鶏図	
		11	紫雲寺本堂内陣鳥獣図		45	紙本墨画蓮池図	
		12	木造観音菩薩立像		46	民家	
		13	新芦屋古墳出土馬具		47	住吉神社能舞台	
		14	木造准胝観音立像		府	48	春日大社南郷目代今西氏屋敷
15	味舌天満宮本殿	49	旧丸田家住宅				
摂津市	府	16	摂社八幡神社本殿	50	旧山下家住宅		
		17	金剛院木造不動明王立像	51	旧藤原家住宅		
茨木市	国	18	郡山宿本陣	52	旧新田小学校校舎		
		19	阿武山古墳	53	旧重光家高倉		
		20	摂津東奈良遺跡出土銅箔関係遺物	54	旧吉田の農村歌舞伎舞台		
		21	石灯笼	箕面市	国	55	勝尾寺旧境内・示八天石蔵及び町石
		22	木造如意輪観音坐像		国	特別天然記念物	オオサンショウウオ
	23	木造四天王立像					
	24	安為神社					
	25	海北塚古墳					
	26	厨子入り象牙彫キリスト磔刑像					
	府	27	佐保の石槽				
28		乾邸のいちょう					
29		忍頂寺石造五重塔					
30		須賀神社のくす					
31		地福寺石造五重塔					
32		木造十一面観音立像					
33		蓮花寺木造地藏菩薩立像					
34		銭原の石槽					

出典：平成6年度大阪府教育委員会資料、平成7年度高槻市教育委員会資料  
 「豊中の文化財」豊中市教育委員会  
 茨木市統計書 H12 年度版  
 吹田市統計書 H12 年度版  
 大阪府文化財分布図 H12 年度 摂津市教育委員会

●大阪市・東淀川区

○崇禅寺

天平年間（729～49）、行基の開創。法相宗に属したが、嘉吉元年（1441）6月、播磨国主赤松満祐・教康親子が足利義教を殺した際、その首級を当寺に葬ったことから、同2年、管領細川持賢が開基となり、義教の菩提樹として再興し、曹洞宗に改めた。以来足利幕府の崇敬厚く、寺運も栄えたという。

また、この寺は「敵討崇禅寺馬場」でも有名である。正徳5年（1715）11月4日、大和郡山藩士遠城兄弟が、末弟の仇、生田伝八郎を討とうとして、逆に返り討ちにあったという悲劇的な事件がおきた。境内にはこの遠城兄弟の墓、足利義教・細川ガラシャ夫人の墓などがある。



○中島大水道跡

大道村庄屋澤田九左衛門らを中心とする農民たちの手で、水害防止のために現在の淀川区淡路から西淀川区福町にかけて開削された水路で、延宝8年（1678）完成し、明治32年（1899）の淀川改修に至るまでその機能を失わず、住民に多大な恩恵を与えた。下水道整備にともなうつぎつぎと埋め立てられ、いまでは樋門と顕彰碑を残すだけとなっている。

○定専坊

石山本願寺ゆかりの寺で、浄土真宗中興の祖蓮如上人も立ち寄ったと伝えられる。室町時代の建築様式を今に伝える諸堂は、楠木正成の孫正勝が、正成が3代覚如法主に帰依していたのを追慕して、この寺に隠棲したのを始まりとして、一門が檀家と協力して造営したという。そのため、寺紋には「菊水」が使用されているという。なお、鐘楼前には楠木正勝から正盛・盛信に至る楠木一族の墓が並んでいる。



●大阪市・淀川区

○大願寺

長柄橋の人柱伝説でよく知られる寺である。推古天皇（592～628）の時代、長柄架橋工事のため一身を犠牲にして人柱となった垂水の長者 巖氏の義拳を聞いた天皇が、その菩提を弔うため勅命で建てたもの。寺の裏北側の光明ヶ池跡地は人柱埋没の地とされ、その徳をたたえる巖氏の供養碑がある。

●吹田市

○吉志部神社

創建は崇神天皇の時代。大和から移し、大神宮と称したのに始まると伝えられる。現在の本殿は慶長15年（1610）8月、戦国末期の武将、三好長慶の次男、吉志部一次の再建と伝えられ、慶長時代の建築様式をよく残している。国の重要文化財に指定されている。

境内林に吉志部瓦窯跡が、その東約200メートル七尾瓦窯跡があり、ともに国の史跡に指定されている。

○吉志部瓦窯跡群

平窯九基が約15メートル間隔で並び、社殿裏に登り窯四基がある。平安京造営の際に宮殿の瓦を大量に生産されたとされる。この千里山丘陵一体の土は、焼物をつくるのに適した粘土であり、古墳時代に須恵器がつくられていた窯業地帯であった。

○七尾瓦窯跡群

吉志部瓦窯跡よりも時代をさかのぼるものとみられている。ここでは、聖武天皇の難波京遷都の際に、その宮殿の瓦を生産したものとされている。

○円照寺

仁寿3年（853）、文徳天皇の勅を受けた慈覚大師が天皇の御厄除を祈るため、南河内叡福寺の聖徳太子廟に参籠し、霊夢を感じてこの地に千手観音菩薩を安置したのが始まりといわれている。その後奥院を建て、准胝観音菩薩像（大阪府の文化財に指定）を置き寺観を整えた。

●豊中市

○西福寺

延慶元年(1308)の開創。もと天台寺の寺院であったが、天保2年(1318)道念の時に浄土真宗に転宗、慶安年間(1648~52)に無住となり、元徳元年(1711)再建された。境内一面の庭に広がる「扇松」が知られ、松の寺ともよばれるが、国の重要文化財の伊藤若沖の「群鶏図襖絵」で有名である。



○桜塚古墳群

四世紀末から五世紀末にかけて、岡町から桜塚一帯に形成された中期古墳群。明治時代の絵図によると、三六基の古墳が見つかるが、現在は大石塚・小石塚・大塚・御獅子塚・南天平塚の五基の古墳を残すのみである。各古墳からは、鉄製品が大量に出土し、特に甲冑などの武器・武具が多い。

○東光院

天平年間(729~49)行基の開創と伝える古刹。延宝9年(1681)霊全が堂宇を修築、文化年間(1804~18)弥天一州が堂宇を再興した。もと大阪中津にあったが大正3年現在地に移転した。萩の名所として知られ境内に子規の句碑があり一般に「萩の寺」として知られる。寺宝の木造釈迦如来坐像は国指定の重要文化財である。



○服部緑地公園

豊中市と吹田市にまたがる面積約129万平方メートルの府営公園で昭和26年に開園した。松林と竹やぶと10数個の池が広い園内丘陵に点在し、スポーツ施設・野外音楽堂・日本民家集落博物館・回転花壇などの施設がある。



●茨木市

○阿為神社

創建年代は明らかではないが、延喜式内社に列する古社で、天児屋根命を祀る。神社に伝えられる銅製二神二獣鏡は、径24センチの白銅鏡に二体の神像と二頭の獣形が描かれたもので、3世紀ごろ中国の魏の時代の作品とみられている。將軍山古墳から出土したものといわれ、国の重要美術品である。

○郡山宿本陣

本陣は、江戸時代、大名や幕府役人・公家などが参勤交代や公用で旅行するとき、宿泊・休憩をした施設。京都から西宮に通じる西国街道のほぼ中間にある郡山宿は玄関先に椿の老樹があって見事な



花を咲かせたところから「椿の本陣」ともよばれていた。現在の本陣の建物は、享保6年(1721)3月に再建されたもので、各四基ある本陣の遺構をよく残している。宿帳には播州赤穂城主浅野内匠頭長矩が、元禄13年(1700)、最後の参勤の際、ここに宿泊、また浅野家断絶の際、赤穂城受け取りの脇坂淡路守一行もその任の途中ここで一泊するなど、興味深記録がある。国の史跡に指定されている。

○総持寺

寛平2年(890)、藤原高房の子中納言山陰が改創したと伝える古刹。寺伝によると、高房が大宰府に下る途中、殺されかけた一匹の亀を助けた。のちに船旅の途次、幼児が海に落ちたところを、亀がその幼児を背にのせ助けた。高房は観音の加護を謝し、遣唐使大神御井に託して白檀を求め、観音像を刻んだのが、現在本尊の千手観音だという。そののち、皇室の崇敬が厚く寺運も栄えた。元龜2年(1571)、織田信長の出火により、伽藍12等を数えた僧坊は焼失したが、慶長8年(1603)豊臣秀頼が片桐且元に命じて再建した。



○梅林寺

大永7年(1527)眠誓が開創。四世是頓の時、茨木城主中川清秀が帰依し寺運も栄えた。天正11年(1583)4月21日、清秀が賤ヶ岳の合戦で討ち死にした時。是頓は賤ヶ岳に赴いて遺骨を葬り、遺髪を持ちかえり、これを寺内に収めて供養した。墓地には清秀と、その子息淵之助の墓がある。寺宝として秀吉の書翰・森田橋左衛門像・中川清秀像などがある。秀吉の書翰は、本能寺の変について、清秀が備中高松城攻めの秀吉の急報したものに対する返事である。



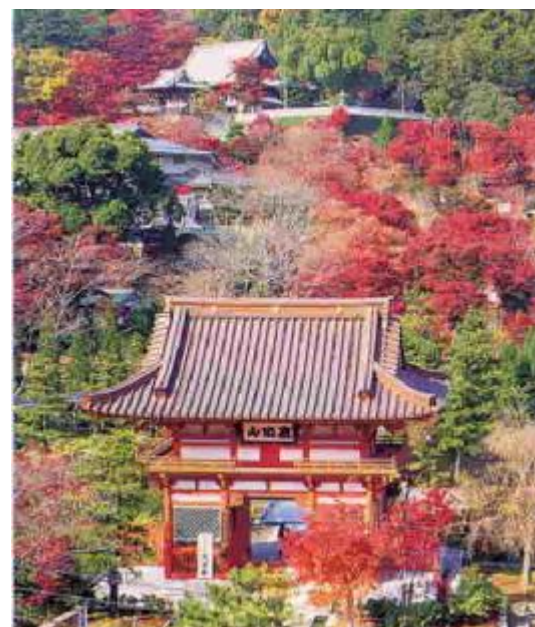
●箕面市

○勝尾寺旧境内、八天石蔵及び町石

寺領協会ハヶ所に平面三段石積みのほうじ（境内の協会の標示）がある。発掘調査の結果、ほうじ中心の地下から高さ28～30cmの銅造の四天王像と四大明王像がそれぞれの寺に向けて埋めてあり、寺領の境界と、寺域のはかったことがわかった。「八天石蔵」といわれ全国でもめずらしい遺例である。町石は西国街道から分かれる勝尾寺の旧参道三六町のうち、山門から七町目に至る一町ごとに建立された八基の塔婆で、文献によれば宝治元年（1247年）建立と考えられ、町石として現存する最古の遺例である。

○勝尾寺

心頂山 菩提院と号し、西国三十三カ所、第二十三番札所として有名である。摂津国司藤原敦房の子、善仲・善算が新亀4年（727）この地に草案を構え40年にわたり修行、天平護元年（765）光仁天皇の開成皇子が当山の登り、二人について修行した。二人の死後、二人を第一代の座主とし、宝亀6年（775）道場を建立、弥勒寺と称したのが起こりである。清和天皇の時、現寺号を賜り、以来皇室の崇敬が厚かった。元暦元年（1184）、源平合戦の際堂宇は焼失したが、源頼朝が再興を援助した。境内は箕面山の東に接し、開成皇子陵墓・光明院勝尾寺陵などのほか、本堂・仁王門・薬師堂・輪蔵・二階堂・六角堂・開山堂・荒神堂などがある。諸堂の多くは豊臣秀頼の命のより片桐且元が修築したものである。また、高さ1.56メートルの石造五輪塔は、熊谷直実塔と伝えられ、府の文化財に指定されている。



○明治の森 箕面国定公園

明治100年を記念して昭和42年に東京と八王子市の高尾とともに明治の森箕面国定公園に指定された。箕面滝・箕面山地の峡谷を中心に、春の桜、初夏の新緑、秋の紅葉と、四季折々の変化をみせる景勝の地である。園内の唐人炭岩、箕面の滝などは府下随一の景勝地である。また植物・昆虫の種類も多く、自然の宝庫として知られている。



○瀧安寺

箕面山吉祥院を号とする。白雉元年（650）、役小角が箕面滝に参籠して秘法を感得。諸堂宇を建立。箕面寺と称したのが始まりとされ、創建以来修験道の根本道場として発展した。

元弘の乱（1331）の失敗で後醍醐天皇が隠岐に流された際、護良親王は当寺に命じて天皇環御を祈願させ、建武親政に際しては天皇から「瀧安寺」の寺号勅額が寄せられたという。慶長年間（1595～1615）に兵火・震災で堂宇は焼失・倒壊したが、明暦2年（1656）、後水尾天皇の勅命により再建された。約400年前の天正年間に当寺で宝くじが発祥し、これを求める大阪商人たちでにぎわった。今も毎年正月に修正会が行われ、このとき弁天道の前で古式富くじが行われる。



●摂津市

○金剛院

天平10年（738）、行基の開創によるもので、当時は放光山味舌寺と号した。寺伝によると、応仁年間（1467～69）のころ、この一帯に盗賊が出没したため、村人が本尊に盗賊追放の祈願をしたところ、本殿から数百匹の蜂が飛び出し、盗賊を追い払ったという。その蜂を供養して建てたのが、境内にある蜂塚である。これを機に寺号を蜂熊山蜂前寺と改めた。

○鳥飼院跡

平安中期、菅原道真を登用して藤原氏の勢力をおさえた宇多天皇の離宮であった。鳥飼は都から近いこともあり、山崎、水無瀬とともに離宮や別荘がつくられた。「大和物語」には、宇多天皇がたびたびこの地を訪れ、遊宴を催した事などが記されている。現在は工場・倉庫が建ち並び新興住宅地となり、鳥飼離宮の面影をとどめるものはなにひとつ残っていない。

出典：「ふるさとの文化財 郷土資料事典 大阪府」人文社  
「豊中市役所ホームページ」、「茨木市役所ホームページ」、「箕面市市役所」ホームページ、  
「京都国立博物館ホームページ」、「大阪府観光連盟ホームページ」より